明治四十四年拾月一日發行（毎月一回一日發行）（九月二十八日印刷納本）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

新女界

第参巻 第拾號

東京 新人社 發行

新女界第參卷第十號目次

社説
◎勇氣　安井哲
講壇
◎基督の家庭　海老名彈正
想苑
◎婦人と信仰　海老名牧師
◎オルヅォースの『アンドリヤ、デル、サトー』を讀みて　三谷民子
◎無題錄　まつ子
◎女子の高等敎育に就て　ジョルタン博士
文苑
◎貞樣　しのぶ
◎草の實　野口せい子
雜俎
◎東京の貧民窟　坂本龍之助
◎愛生産院を訪ふ　一記者
◎原町に住むの記　聖山生
家庭
◎時代の變遷と母親の覺悟　海老名みや
◎子供の復習　西島富壽
▲隨感▲煩悶相談部▲林町より

毛髪の惡臭は交際上の不覺紳士も奥さんも孃さんも香りよき千代田香油に限るとの高評盛んなり

定價
七十錢
卅五錢
廿五錢
十七錢

スワン石鹼
純白で湯水に浮き價安くて品の良き英國製スワン石鹼は全國の藥舖小間物店化粧品にあり
英國製
スワン石鹼
日本一手販賣
東京馬喰町四丁目
山岸三之助
電話浪花一三七九三
振替口座一九九七八

增築落成

十月一日より

秋季新製品大陳列會開會

○藤原模樣圖案應用衣裳陳列

○よせぎれ見切反物數千種

○新商品（術工藝品、陶磁器 漆器食料品、履物）陳列販賣

創業貳百五拾年

增築落成

紀念大賣出し

○餘興場と少女音樂隊設備

○寫眞室の新經營と假裝衣裳の用意

○藤原式休憩室新設と食堂の改良

○東京市第一の大窓飾と昇降機完成

東京日本橋

白木屋呉服店

羽仁もと子主筆

婦人之友

●夫婦號

十月一日發行（定價十五錢郵稅一錢 半ヶ年六冊前金郵稅共十二冊同一圓七十五錢）

夫と妻との關係は、嫁と姑との關係よりも、モット切實な、モット眞劍な問題です 夫婦號は今の多くの家庭の苦しんでゐる、此切實にして眞劍なる問題に向つて最も深き且正しき解釋を與ふるものであります

◎夫道、婦道、母道……羽仁もと子

◎夫婦喧嘩……文學博士 三宅雪嶺

●未亡人論……羽仁もと子

●男子の罪か婦人の罪か……綱島佳吉

●眞にうるはしい夫婦……小崎千代子

●虫のよい家族主義と個人主義……栗塚龍子

●全く思想の違ふ私共夫婦……某實業家夫人

●かうして氣むつかしき夫に事へました……某官吏夫人

●家庭は理窟の無いのがよい……某女流教育家

▲ピースメーカー（夫婦喧嘩を描きたる泰西名畫）

▲結婚當時の寫眞と今の寫眞（附たり結婚生活に就ての追懷談、感想談）……當代名士十數氏

本誌の特色たる實用向記事は例によりて一々有用一々適切

東京小石川雑司ヶ谷町 電話番町三六九八番

婦人之友社

振替口座東京壹壹六〇〇番

京都染元

染見本發送

黒紋附
模様染
新小紋
色染
更紗染

取引簡易

玉徳商店
京都市醒ヶ井佛光寺

京染悉皆商
京都市新町三條上ル
松井宗七
幷ニ白生地販賣仕候

本誌代金に就て

謹で申上ます。

新女界誌、代金切となりました方には、帯封に『前金切』の印を捺しますから、其節は何卒直にお拂込下さいまし。又御滯納の方は帳簿の整理上、甚だ困りますから、至急お送り下さい。右御願ひ申上げます。

東京市小石川區林町四丁目四十三番地
新人社事務所
振替口座東京一四〇〇五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小兒滋養品!!!

獨逸醫科大學ソキスレット教授創製

◉滋養糖 (NÄHR-ZUCKER)

本品は育兒上牛乳に必要なる混和料にして營養を盛にし身體を強壯にす方今實に理想的滋養品なり

獨逸醫科大學ケルレル教授改製

◉マルツ汁エキス (Malz-Suppen-Extract)

本品は殊に便秘に適切なる小兒滋養料にして腸胃を健全にし健康を促進する事殆ど比類なし

獨逸ナツソビア會社製

◉シラン (SIRAN)

本品は慢性氣管支加答兒に特に服用すべき有力なる藥劑にして味美なり大人小兒一般に用ひらる

(詳細の説明書は御一報次第進呈す)

東京市神田區美土代町四丁目五番地

小川町電車停留場前

藥舗和光堂

電話本局一六四八　振替口座東京一四九五九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第參卷第十號

勇氣

安井哲

武を貴んだ時代には、男子には勿論女子にも亦勇氣がありまして、あらゆる困難に打勝つて夫や子供を勵ましたばかりでなく、時としては自身戰場に薙刀を振つた異例もあります。然るに文明の結果、軍事に關係ある人々を除いては一般に勇氣の缺乏を生じて來たかの觀があります。勿論戰國時代の勇氣と平和時代の勇氣とは同一ではありませんけれども、兎に角近來一般の傾が少しの困難苦痛に心を亂して如何に之れに當らんかと工夫するよりも、寧ろ如何にして之れを免れんかと煩悶する者が増して來た樣に思はれます。甚しきに至つては些細の苦勞に氣を顚倒して自殺を謀り、罪なき子供の生命までも奪ふといふ樣な罪惡を犯す者もあります。是等は日々の新聞紙が報ずる所の社會の醜現象であります。

勿論多數の中には、實に同情に堪へぬ失望者もあ

りますｏ彼極貧にして夫が病に罹り而も多くの幼兒の手足纒などで、不幸にも日々の生活に差支へ、此世をはかなんだり、或は又年老いて身體の自由を失つた者が、悲慘にも若い人の虐待を受けて、悲觀の結果自殺する樣なのは實に憐れな者でありますけれども、中には相當の敎育ある人や、又は資産のある人、或は又身體の健康なる靑年等が困難に堪へ得るだけの心身を有ちながら、勇氣缺乏の結果自棄する樣な意氣地ない例もあります。

　そこで勇氣缺乏は、獨り其人自身の損失のみでなく、社會一般の活氣と奮鬪力とを失ひます。從つて此空氣を吸つて育ちつゝある所の幼年子弟の元氣をも自然に殺ぐ危險があります。例へば余程優秀の兒童でなければ、數學などの困難な問題に對して、「出來るかどうだか一つ試して見ませう」と勢よくいふ者は少く、一寸考へてむつかしそうならば「之れは私には到底出來ぬ」と止めやうとする者の方が多くあります。之れと同樣に自分の實力より少し以上の

事を一生懸命にやり遂げやうといふ意氣込みの靑年は少く、成るべくは容易い事で余り苦しくない、而も利益の多い事を望む者が多くあります。吾々成人も亦手を束ねて「あゝ苦しい」「あゝつらい」と歎息して居る事が多く、其暇に少しでも働いて僅でも其苦痛を減ずる方が遙に勝つて居る事を忘れて居ます。是等は皆平時に於ける勇氣缺乏の然らしむるところでありますが、かゝる有樣で進んで行けば社會は終に如何になるでありませうか。こんな貧乏な國に生れて、世界の强國と文明を競つて行かねばならぬ吾々は、國政に頭を惱まさるゝ大臣方と共に、吾國の前途を思うて、小さいながらに、其相當の責任を盡さうと奮起すべきであります。之れ丈でも、ぐづぐづしては居られぬのに、比較的小さな目前の困難に心を亂して、姑息の平和を得やうとあせるなどは、眞に意氣地のない次第であります。

　故に吾々は先此世の中を「苦勞の多い場所」であると解釋し、平生困難の起らぬ時から、起つた時の覺

悟と心の準備とをせねばならぬのであります。此れさへあれば、心配の十中の八九は大抵豫め防ぎ得る者で、よしや之れを免れ得ぬとしました所で、豫期して居た心には一時的の強い刺戟もさほどには感せぬ者であります。又幸に現在が滿足の境遇であるならば、充分感謝して自分のため又他人のために出來るだけ價のある生活をなさうと心懸けねばなりますまい。

例へば富んだ家に生れたとしましたならば「日々の食物を得るにさへ困難な人々のある世の中に如何なる贅澤でも出來き得るといふのは何んといふ有りがたい事であらう」と喜び、次に金のあるに任せて美衣美食に飽き他人に羨まれるよりも、成るべく質素な生活をして、周圍の人々に眞面目な考を與へ着きれぬ衣服や贅澤品に金錢を費すよりも、他人のため眞に價のある事に出金して、自分一人の物質的快樂のみを樂します、他人をも滿足させて高尚な精神的快樂を喜んだ方が、單に富者として人々に羨望せらるゝのでなく、質朴な慈善家として他人の敬愛を受けませう。前者と後者との他人の精神上に及ぼす感化の差違を比較しましたならば、其大なるに驚くでありませう。

此世の中は吾々一人の專有でない事は勿論で、如何につまらぬ者でも、幾分の影響を其周圍に與ふる者であります。其故に全然他人の利害を無視して自身を處置する者は、利己的行爲たるを免れません。而して他人に對する關係は、其身分や位置や學問や經驗等の高まる程益々廣大になつてまゐります。故に斯る特權を有する人々は、常に最大の勇氣を鼓して、自他幸福の爲め、吾下等の慾望に打勝たんと努力し、困難に對しては最も愼重なる態度に於て之に應せんと覺悟せねばなりません。若吾一人の身の處し方が、周圍の人々の心を引締むるに與つて幾分の力があつたならば、實に愉快なとではありませんか。

吾々は國民として皆國に盡すの義務があります。併し誰も彼も國家のために、偉大なる事業を爲して、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

國に報ゆる事は出來ません。故に吾々の如き平凡なる者は、先善良なる國民となつて、周圍にある少數の人々に着實健全なる空氣を供給すれば滿足し得るのであります。然るにかゝる平凡なる希望を實現するには、戰地に一命を抛つと同樣な勇氣が要ります而して此勇氣は强敵に逢つて初めて起るのでなく、人生の意味を味ひ、理想的生活を實現しやうとする日々の努力に依つて養はるゝ者であります。吾々が一度空虛な生活を棄てゝ、實着なる生活に移りますと、此世間が眞に面白くなつて來ます。而も其面白さは何の不足もないためではなく、滿足も不足も同樣に我に興味を與ふるからであります。かくて生活の種々なる變化に出逢つて心身は益々練られ、如何なる事にも敏捷に相應する事が出來て、元氣は常に健全なる心身に溢れて居る樣になるのであります。

　要するに人の運命は色々であります。然るに吾々は人生の變化に應ずる準備が未だ心に出來ぬ前に、外部の刺戟は日に月に强大となつてまゐりますので心の權衡を失ひ、常に不定不安の狀態にありますから、少しでも强い刺戟が一時に來ますと、忽ち心は顚倒して、自重心を失ふ樣になるのであります。其故に吾々は平生確と覺悟を極めて、一方には如何なる困難にも力の繼く限り苦鬪して見やうと決心し、一方には下等の慾望と惡戰して、一時的の華やかな生活を爲さんよりも、永續的の實のある生活を爲さうと決心し、出來るだけ心身を練るのが第一であります。愉快に働く人は烈しい勞働にも堪へる事が出來、快活に事に當る人は難問題も比較的容易に解決が出來る者であります。自ら造り出した煩悶に自身を苦しめて、悲しく此の世を送つては、生れて來た甲斐はありません。吾身の幸福を願ふ人、社會の隆盛を希ふ人は、平時に於ける勇氣を養ふべきであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講壇

家庭の基督

海老名彈正

一

基督はナザレの一寒村に生れ、家は大工を業とせられた事は誰も知つて居る所ろであります。斯く聞くならば、多くの人は彼は何の教育もなく思想も低い家庭に人となられたと想像せらるゝであらうが、夫れは事情を知らざるの致す所であります。猶太に於ては大工は強ち教育なきものとは申されませぬ。又教育ある人が斯る職業を營んで居つた例も決して少くありません。パウロは自ら天幕職工であると云つて居ります。彼はエルサレムの大學を卒業した人で當時の大學者でありましたが、猶ほ天幕製造を職業といたして居りました。基督よりも少しく前の人で、猶太の學者の花と歌はれ榮えと讃へられた、彼のヒルレルも亦大工でありました。當時猶太の學者間には一の格言があつた。夫れは「學者に職業を教へぬのは之に盗みを教ゆるなり」であります。然り、學者が外の職業を持つ事は、非常に尊い事であつた。舊約の詩篇にも之を歌つてをる。酬なき勤勞は悲しい事であるが、之によりて衣食する事の出來るのは神の賜物であつて人生の幸福之に過ぎたるはな

い。此の邊は支那人や朝鮮人などの考へ方とは余程違つて居ります。

基督の御弟子はガリラヤの漁夫であつて、目に一丁字なき者のやうであるが決してそうでない。彼等が起て福音を宣べ傳ふる時に、學者達はどうしてコウだらうと驚きました。彼等には實にエライものがあつた。思ふに漁業は彼等の内職であつて外に貴いものを持つて居つて、之を養ふために漁業をして居つたのであらう。されば基督の父ヨセフが大工であつたのを以て無學文盲の人とは云へませぬ。思想もなき者と見る事は皮相の觀と云はねばなりませぬ、慥かに相當の學識があり、少くとも舊約を讀み、之を解釋し、之を語り得る人であつたと想像することが出來ます。

又其母は如何にと申しまするに猶太の女は大抵一通りの教育を有して、希臘の婦人とは大に趣きを異にいたしました。希獵婦人には二種の區別がある。一は奧樣で一は藝者である。そして藝者は廣く上下諸種の人と接するものであるから、中々知見も廣いが、奧樣は家の中に閉ぢ籠りて、子女を教育するのみであつた。之に反して猶太には公の藝者はない、國風の堅く禁ずる所であつた。猶太の婦人は眞に夫の友であります。彼等は安息日には夫と共に會堂に行き、モーセの律法や豫言者の書を聽き、年に幾度かは夫と共にエルサレムの宮に參詣を致しました。彼等は皆猶太國民としての教育を受け、舊約を讀み詩を謡ひ、豫言書を暗んじ、箴言を語りました。かの箴言の中には實に女の理想を歌つてをる。家の世話、夫の世話のみでなく、實に女としての高尚なる教訓を含んでをります。夫の舊約の雅歌は如何、あれは農夫の娘が、飛ぶ鳥も落とすソロモン王の目に止まり、召出されて妃とせられんとする時、曾て己が心に定めたる、田舍の羊牧者の若者を忘れず、さう〱王の命に從はず、金銀寶玉、燦爛として目も眩むばかりの榮化を土芥の如く打捨て〵田舍に歸り來るところを歌つたものであります。これは猶太女

性の理想であつた。嗚呼いかに貞潔の德を重ずるかこれ東洋に於ては見られないことである。

二

如斯猶太の女は希臘のそれと違ひ唯だ一種であつて、彼等は夫の友であると共に母であり、姉妹であつた。これを思ふと基督の家庭は片田舍にあつたにせよ、父のヨセフも母のマリヤも相當な人々であつたらうと察せらるゝ、猶太では隨分偉い人物が片田舍から出て居ります。而して同じ家庭から人物が並び／＼出て來た後が見ゆる。基督より百六十年前、マカビー戰爭と云ふ獨立戰爭があつた、これは猶太が他國の壓制を破り、獨立を宣言した大戰爭で、其時の主領で且つ戰後の經營をやつた人は皆マカビー家の五人の兄弟であつた。彼等の父は祭司であつたが、第一に國家のために命を捧げ、夫れから兄弟達が代る／＼出でゝ獨立を完ふした。又基督と殆んど同時代に狂熱黨と名けらるゝ主戰主義の一團體があつた。其主領は家柄はよく分らないがゴロナイトのユダと云ふ人で三代續いて國家の爲に命を捧げ猶太滅亡の時まで撓ずにやり續けました。夫等の事を思ひまするに、基督と其兄弟が同じくナザレの伏家から出た事は何も不思議はない。福音書によると基督には五人の兄弟と若干の姉妹とがあつた。姉妹は何人が分らないが、複數で記してある所を以てみれば二人以上であつたらう、何しろ多數の家族であつた。こゝで基督御自身にも大工をやつて居られた、兄弟達も同樣に大工の手傳をして父を助けられ父の沒後は共稼ぎて母や幼き弟妹を養はれた樣である。而して其家は赤貧であつたとは思はれませぬ相當なとはして居られた樣である。基督が傳道の當初ラビとなり給ふた時の如き多少の資產があつた樣である。

斯る家庭に基督といふ世界を動かしたる偉人が生れました。誠に珍しい事であるが、然し基督御一人のみが出られたわけでない。兄弟達も決して平々凡凡な人物ではなかつた。彼の基督の次の弟ヤコブの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

如き矢張り一種の大人物であつて、パウロもペテロも彼を畏れてをつた。殊にパウロの如き人物ですらヤコブの同意を得ずしては何をするにも困難であつた、エルサレム教會の三大柱石は實にペテロ、ヤコブヨハネの三人であつた。彼は遂に殉教の死を遂げたが、其弟が又後を續いだといふ傳があります。之を以て見るも彼等は決して平凡な者でない而して彼等は兄弟實に仲よくあつた。猶太では兄弟仲の好い事を殊に美德と致しまして、詩篇などにも兄弟の睦じい事を、ヘルモンの露がシオンに流るゝ如しと歌てをりますが、基督の家庭は實に美しい者であつた。

三

此外に語るべき一の事がある。基督の家庭は我等の見聞する職人の家庭のやうに、朝起きればスグ仕事場に入り、夕には晩酌に淘然としてたわいもなく笑ひさゞめいて、其の日を送つたかと云ふにそうでない。此家庭は實に宗教的の家庭であります。パリサイ人以上の律法の嚴守者で、其主義に基いて嚴格にモーセの法を守り、熱心に舊約聖書を研究して、朝夕の話は宗教談であつた。而して彼等の信仰は安心立命のためにあらず。實に愛國者としての宗教家であつた。其時の猶太は非常に羅馬政府の爲にいぢめられてをつた。猶太人の苦痛は即ち彼等の家庭の苦痛であつたに違いない。母のマリヤは非常に識見あるお方であつて子女の教育には非常な注意を拂はれた。子供の云ふ事に必ずしも從はぬ。彼女は子供の主張や事業に對して隨分意見をも述べ注意を促しました。而して我家庭の事のみに齷齪せず天下の形勢に目を注いでをられた。ナザレは一寒村であるが西は地中海、東はダマスコ南はエヂプトに至る要路に當り、交通の便旅客の往來あり、羅馬の政變も内外の形勢もよく分つたのである。左れば基督も「斯當時の休徵を知らざるは何ぞや」云々と云つてをられる。これは聖書にはないが、ヘブルの福音書といふものにヨハネがヨルダンの川で人々に洗禮を施す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事が聞えて來た時、之れが基督の家庭で一大問題となつた事が記してあります。これ卽ち天下の大問題がイエスの家庭の問題となつたのであります。その書によれば初めヨルダンでメシヤの運動があると聞いて母と弟妹たちが行かんと決議した。然るに基督が愈よ猶太國民のために身命を捧げてヨルダンにて洗禮を受け、救世の大運動に携はつた時には家庭の人は皆同意せぬ、實に大反對であつた。此家庭であれば琴瑟の和するが如く調和する筈であるのに、同意せぬ所を見れば慥かに母君や兄弟たちの間に一家の見識があつてイエスの御事業に對し一致する事の出來なかつた事がわかる。しかし決して妨げはせぬ、放任してあつた。斯くて基督は遂にナザレの村を出でゝ、カペナウンに別居すべく余儀なくなられた。母や弟達と意見が違つたのは實に苦痛で、斷腸であつたらう。當時基督に反對したものは啻に猶太の學者だちばかりではない、彼の家庭も學者の肩を持つて居らるゝ。反對者は彼を氣狂ひと云つた、卽ち惡靈につかれた者と評判立てたのであります。これを聞いた母上の心配は一方でありません。そこで母上は弟と共にワザ〱彼を連れ戻しに參りました。基督にとりて之程の苦痛がありませうか。自分は眞面目に其信ずるところを宣べ傳へんとして居るのに、他人ならば知らず、親や兄弟までが之れを氣狂ひ扱ひにするに至つては、實に斷腸でありましたらう。

四

左れど斯の如き事は人生には有り勝ちのことである。親にも兄弟にも辨へられぬ衷情の叫び、心の奥底の深い〱靈性の要求は、如何に血を分けた肉親兄弟と雖も之を知る事は出來ませぬ。之れは實に神と我との關係である。之れ實に人生に於ける尤も痛切なる悲劇である、基督はこれを實驗せられた。「我母我兄弟とは誰れぞや、天の父の聖旨に從ふのも是れ我が兄弟なり我が姉妹なり、我が母なり」とは此

時の基督の言であるが、何と痛切ではありませんか彼等は義理一遍で基督を捕へに來たのでない、人情を以て骨肉の愛を以て、彼を連れに來たのである。此人情にまけて我が大事業をやめるべきか。否々決して然らず。そこで我母我兄弟とは誰ぞや、すべて天の父の御心に從ふものこれ我母我兄弟なりと叫ばれた、基督の御心中は察しまつるだに斷腸の極みであります。

之れは我等の家庭に於ても又然りであります。親は唯其子供を產んだからとて、それがすぐ完全なる親子とは云へぬ。もつと奥ふかい處に於て相一致せねば、決して家庭に於て天國は見られません。肉親の關係が家庭の凡てであると見るのは淺薄である、人間は夫れよりももつと深いもの、大なるものであります。基督の母君は何でも子供の云ふことを聽くと云ふ人でなかつた事は前申した通りである。又弟等も皆一角の識見を有してをつた。即ち意見が違つたのである。基督は實に弟思ひ妹思ひであつて、一家團欒の樂しみを欲せられたとは、彼れが長兄でありながら齡三十に至るまで妻帶もなされず、水入らずの家庭に母や幼き弟妹を養ふて行かれたことをみてもわかります。然るに一度天下の事業にかかつて救世の大業をやられるに當りては、之を捨てて顧みず、凡ての苦痛も迫害も一身に引受けて立たれたのである。さはれ眞理は最後の勝利者である。基督が磔に逢つて殺されし後、其弟妹は眞先に之を信じました。ヤコブが基督を見た時の心理狀態は實に悲壯でありましたらう。嗚呼我兄は實にメシヤであつたか、神の子であつたか、弟として之を信ぜずして居つたのは何たる不量見であつたらうと、今昔の感にたへなかつたでありませう。之れ又實に彼としては斷腸事であります。彼れが茲に於て十字架上のイエスはメシヤなりキリストなりとの信仰を起し、神の子として崇敬するに至つたのは又實にエライ所ろであります。ペンテコステの日に十二の弟子とイエスの母と其兄弟たちもこゝに居れりとありますが、之

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を以てみればヤコブのみならず、母君も兄弟たちも皆自らの淺薄な皮相な考へを悔いてイエスに歸依したのでありませう。

五

我等の家庭をもつに當りても親は子の深い尊いものを認め、子は親の深い所をみて尊敬せねばならぬおの／＼が心の奧深ひ所に尊敬すべき者を認めねば決して立派な家庭は造形られません。彼の大哲オリゲネスの幼い時に彼の父がオリゲネスの眠れる姿を見て、其崇高な神々しい容子を恭しく伏し拜んで、神に感謝をしたと傳へられて居りますが、父として我赤子の中に將來は世界を動かすものあるを認めるものは實に幸福なる人であります。祖先の崇拜ではない、我等は息、娘を崇拜し、彼等の中に偉大なるものを見出し之を生長發展せしめねばならぬ。之を認めて貰はれないのは不幸であります。今日の年若き人々は此尊いものを認めて貰いたいのである。父とし母として注意すべきはこれである。之を認めて其母となり、友となり、同情同感を以て、之に對する所に初めて家庭の天國があるのであります。

父も母も兄弟も、乃至は最愛の妻や或は夫までが之を知らず、自分一個が之を持つといふ境遇に置かれました偉人は、實に不幸ではありませんか。主イエスの御身の上は即ちそれでありました。若しも此時母君も弟のヤコブも又他の兄弟たちも、彼の生前に彼と同じ信仰同じ主義でありましたならば、イエスの御事業は更に一層の力を得一層の發展をいたしたでありませう。我等こゝに鑑み、神のみ前に一となり心靈の奧深い處に於て結びついた、家庭を作らねばなりません。これ天國を地上に建設する所以である。

想苑

婦人と信仰

海老名彈正

左は婦人會における海老名教師の講話の筆記なり、校閲を經てここに掲ぐる事となしぬ。

是迄の婦人は家にあつて小供を教育し、家庭の整理をすることを務めとして、少しも世の中に出る事がなく、夫も亦其の妻に世上の出來事を語ることをせず。偶ま觀察の鋭敏な婦人が、夫に社會上の出來事をたづねると、夫がそれに答へる位が關の山でありました。そうして妻たるものは子女をよく教育して立派なる人物を造り上げ、家庭を通して間接に社會のために盡すに過ぎなかつた。然るに今後の婦人は直接に世の中に立つ準備をせなければならぬ。夫れには尤も大切なことは精神の修養であります。

私の少年時代に母が常に口にせられた事がある。曰く、私が男子であつたならば國家の爲めに大に盡すのであるが、女子であるために臺所に居つて、朝夕家事にのみ齷齪して居らねばならぬ。實に殘念であると、これが私の幼心に深くしみ込んで、母を氣の毒に思ひ、自分は何とかして母の志を繼いで國家のために盡さねばならぬと云ふ心が沸然として湧き出でて、遂に今日此事をなすの根底となつたのであります。思ふに子供に最も多く接するものは、學校の先生でもなく、父親でもなく實に母親である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

そうして母親の一擧一動は知らず〲の內に、子供に感化を及ぼすものであるから、母親自身が向上の志を以て修養に心掛けねばならぬ。其處になりますと歐米諸國の婦人はエライもので、男子をも凌ぐ位の人物が澤山あります。

　私は今二三の傑出せる婦人に就てお話しいたしたい。彼の名高い讃美歌「主よみもとにちかづかん」の作者として有名なる、サラ、アダムと云ふ婦人は餘り名も知れない技師の妻でありました。彼の少女時代には其父が每夜聖書の一句づゝを讀み聞かせて、それを暗誦しながら眠ると云ふ有樣であつたから、自然々々に、高尙優美な精神を養ひ立て、其高尙なる精神が遂に多くの讃美歌を作り出すに至つたのであります。

　又女子大學敎育を主張したコブベー孃は博學多能なる上に、大發素養のあつた人であつた。年若き折は希望に滿ちたる美しい信仰を以て、多くのよき事をしましたが、やがて宗敎思潮の變遷時代に遭遇いたしまして信仰に動搖を來し、神の存在をも疑ひ出し、遂に未來永生を信ずる事が出來なくなるに至りました。然るに一日大に決心する所あつて再び信仰を恢復しまして、若き時の快活なる信仰に立歸り、初めて心に安心を得るに至りました。年三十三にして一冊の哲學書を著はして、カントの倫理を英人に紹介し都合四版を重ねましたが、齡八十歲になつてから更に其書を增補訂正し「我今死に瀕して斷言する我は神の至善と來世の存在とを毫も疑はぬ」と書き加へました。彼は老體の身を以て西亞細亞の諸邦を旅行しまして、終にダマスコに到り「舊約時代の都府」と云ふ書を著はしました。英國に歸りて後はブリストル市の人のために盡し、敎育なき人々のためには夫れ〲適當な仕事を與へ、敎育ある人々には職業の道を求めてやるなど、多くのよき働きをいたしました。或時の如きは寄る年波に心つかれ、心中つく〲安樂に餘命を送らんと願つたが、又た疲れたる心を引き起して、益々社會公共のために働き

ました。又（今より四十八年前）女子にも男子と同等に大學の學位を與へよと主張し、初めは人の物笑ひとなつて居りましたが、遂に其存生の中に其主張を貫徹するに至りました。

今一人は米國人でチツキスと申す人であります。この人は幼年の時より蒲柳の質であつたが、父母の不取締より苦學をせねばならぬやうに餘儀なくせられ、十四歳の時より人を教へ、十九歳にして女學校を起こし、非常に篤信な人であつた。而して彼の有名なチヤンニングに感化を受けて良心の命ずるまゝに世のため人の爲に働いた。その名高い著書「通俗談話」は六十版を重ぬるに至りました。然に三十三歳にして病氣に罹り、英國の實業家で非常に信仰のよい人の家に客となる中に、全快いたしました。そうして歸國の後は未だ交通の便なき不便なる地方を馬車にて東西に奔走し、三年間に一萬哩を驅け回り其間には馬車の修繕も自分でいたし、三百ケ所の監獄と五百ケ所の慈善院病院等を見舞ひ、又癲狂院などで患者を取り扱ふこと動物を扱ふ如くするを嘆き人の止むるも聞かず纖弱な身を以て自ら患者の傍に行き、彼等を慰め盡したのでありますが、流石に猛り狂ふ病人もこの人格たかく、しとやかな婦人の前には誠に柔順にして猫が飼主に於ける如くであつたと云ふことであります。而して六十歳の時には南北戰爭が起りましたから、彼女は時を移さず戰場に走せ參じまして傷病兵の母となり、彼等のために盡しました。其他或は監獄の改良や感化事業などのために盡すところ多くありましたが、齡八十にして病を得八十五歳にして永眠せられました。

斯く數へ來るならば歐米に於ては猶幾多の女偉人がありますが、日本に於きましては男子にすらも未だ此やうな人物が少ない。日本の婦人は今は種蒔の時代であります。修養を以て根源を養ふの時代であります。日本の婦人は心の根本を神に結びつけ神の力により、信仰を以て終りまで貫徹するの大信念を養はねばなりません。若し婦人が眞に神の能力に觸

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れて、我は神の愛子なり、我心には神宿り給ふと云ふ健實なる信仰を有し、立派なる人格を作り上げまするならば、其人は必ず男子に尊重せられ、何處に行くも、如何なる處に働きまするも、決して人より輕んぜられないばかりか、却つてその清い高い人格に接して襟を正して敬意を表するに至るでありませう。こゝに來なければ婦人は到底駄目であります。此信仰の養成こそは實に婦人問題の先決問題でありまして、之をソッチ退けにして置いて如何に婦人解放を叫びましたところが、害あるとも益なきこと火を見るよりも燎かであります。英國には今より四十年前に既に立派なる婦人を出して居ります。日本婦人は信仰がないために進んでは復退き、進んでは復退き、同じ事を繰返して居ります。之れ女子に根底ある信念がないからである。これからの日本婦人はどうしても信仰の上にたゝなければならぬ。そこでどうしても傳道をせなければならぬ。一人々々の人格を練り上げて、社會に出づるの準備をせねばなりませぬ。

オルヅオースの「アンドリヤ、デル、サトー」を讀みて

三谷民子

私はオルヅオースが好きでムいまして、牛津に居りまする時分にもオルヅオースに就ては特別に研究いたしました。此夏彼の詩集を繙きまして种々な益を得ましたが、其中の有名な「アンドリヤ、デル、サトー」に就ては特別に感ずる所がありましたから夫をお話し致しませう。此詩はオルヅオースが伊太

利のフローレンスに居りまする頃、故國の友人からアンドリヤ、デル、サートの畫いた繪を求めて送つて呉れと頼まれました時、フローレンスはアンドリヤ、デルサトーの永く住つた土地であるから、定めて何か好畫があるだらうと思つて探しましたが、どうしても手に入りませんので、頗る當惑いたし、遂に畫の代りに此詩を作つて送りましたものでムいます。アンドリア、デルサトーは十六世紀の初頃の宗教畫家であつて、ラファエルやミカエロ、アンゼロ等と同時代に出た人であります。此詩は彼の生涯ことに彼の晩年に於ける悔悟のさまを彼自身が獨語するやうな體にしたもので、今日では此詩によつて却つて彼の名が知れてをると云てもよいと思ひます。

此詩の吾等に語る所ろによれば、アンドリヤ、デルザトーは初め佛蘭西皇帝フランシス第一世の畫家として宮中に暮してをつた人で、彼の妻は名をルクリシヤと云ひ、實に絶世の美人でありました。然るに彼女は性質野卑にして虚榮心つよく、貪慾にして驕慢に、實に品性の劣等な婦人で、艶麗な容貌の外は何等取る所なき者でありました。デルサトーは此缺點多き妻を離縁して獨り靜かに心を清ふし、意を凝らして眞の宗教畫家として立たんと思ひましたが自分の卑しき弱き心情は如何にしても此ルクリシヤを見捨つる事能はず。幾度か心に決しては思ひ止まり、同じ思を繰り返してをつた。而して彼は此婦人をモデルとして種々な畫を描いて、彼女の虚榮の資を造つてをつた。

或時彼はフランシス一世より其大肖像を書くべき命を受けた。彼の妻は好機逸すべからずとなし、デル、サトーに勸めて其報酬を前金にて受取らしめ、其莫大な金を以て、パリ郊外の小高い處に數奇をこらした邸宅を構へ、皇帝の前は何のかのとごまかして、遂に肖像は書かずに仕舞ました。詩中にあるフアイソールの邸宅とは卽ち此不義の金で建てた住宅なので、此處に於て彼は深く己れの失敗の生涯を悔悟したのであります。彼は畫家としては一種の天才

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

であつて、之を技術其ものから云へば、ラフワエルやエンゼロを凌ぐものがあつたそうで、若しも斯る失敗がなくて十分に彼の駿足をのぶる事が出來たならば宗教畫家として大名を成す人であつたかも知れません。私は元來繪畫はすきでありますが、彼地でオルヴオースの此詩を讀みましてから、アンドリヤ、デル、サトーの畫が見たくなり、歸途巴里のループルで彼の作なる二三の畫をみました。　一つは「慈善」と申すもので一人の天使が二人の孤児に乳を哺ませてをるので、其天使は

申迄もなく妻のルクリシヤをモデルとしたものであります。誠に好き題材で立派なものでありまして、専門家の間にも好評あるものだそうでありますが争はれぬ事は天の使が氣品なく、殊に其口の邊には何處となく殘忍な無慈悲な相を現はして居ることであります。そこで私此畫家の繪を見て深く感じました事は「モデル」と云ふ事であります。一幅の畫にさへもモデルの好惡で斯く大なる影響を生じまするなれば、我々が人を教ゆるに當りましてモデルとする人物の如何は其の被教育者にどんなに影響を及ぼすでせうかと

云ふことであります。若し其目標とする人物が眞に缺點なき完全圓滿なる人格なれば此上ない事でありますが、夫れと反對であつた日には敎育されるものの不幸は實に測り知るべからずであります。近頃當局の方々が、やれ二宮尊德だとか、やれ楠正行だとか手當り次第に擔ぎ出して敎育上の模範的人物となさいますが、此等の人達が眞に凡ての點に於て萬人の師表となるべき完全なる理想の人格であるか否かは疑問でありませう。この夏この詩を讀みまして彼の憐むべき畫家が品性の劣等な妻のために、持つて生れた天才を發揮する能はざる許りか、折角のこした書其物にまでモデルの品性が影響して居ることを思ひまして、模範人物の大事な事を思ふの念を深くいたし、萬代の師表をイエスキリストに見出しまする者の幸福を思ふと共に、益々之れを世に紹介いたしたいと思ふの情を切にいたしたのであります。

（談話筆記　文責在記者）

無題錄

小此木まつ子

昨日或る處でこんなお話が出ました。

「日本人は西洋間を飾る時に、何故、繪をみんな上の方へ掛けてしまふのでせう。皆、天井へ引着さうに掛けてあるではありませんか。」

「えゝ丁度、私共の國の（米國）田舍の人が、よく高い所へ繪を釣り上げる癖があるけれども何故また、日本人が偶然に同じ様な事をするものでせう。」

「大變美術的思想が發達して居るはづの日本の人があんな事をするのは一寸合點が行きませんね。」

「さあ。普通の掛物を、高い處から掛ける習慣があるからでは無いでせうか。」

「いや、それにしても、一目見て誰にでも分る事ち

やありませむか。眼で見る爲の繪ですもの、成る可く低く見易い所に掛ける可きだといふ事は、さうして一體の西洋室の釣合からいつてもさう上へ掛けてしまつては見つともないでせう。何故、其處が感じに入らないでせう。

「いえ、一體ね、日本人に美術思想が發達してゐるなんといふのは間違ひですよ。それは、發達して居る人もありますさ。けれど、極々少數の人ですよ。其少數の人が、或法式とか、流行とかを産み出すとあとの人は唯是をまねて盲從する許りなんですね。ですから、極りきつた從來の仕方をやつて居る中は誤りなく、形式の通りにするけれども、一旦見馴れない新らしい事をするとなると、何も彼も無茶苦茶になつてどんだ滑稽をするんです。譬へば一間の床に掛物、置物、花瓶とかいふ風に並べる中は大丈夫で、それ相當に位置を保つてあるけれども、さあ西洋間の飾りとなると、誰も敎へて呉れないし、自分の方に大切な感じとか眼とかいふものは無いし唯行當りばつたりに仕るといふ風になるんです。」

「大變悲觀しますね。だけれど實際さうかも知れませむ。まあ日本服を着ては、一點の批難も無い色や柄の取り合せをする人でも洋服となると、まるで見られ無い樣なものを着ますからね。」

「そりあもう何でもさうですよ。根本を作らずに末ばかりを一生懸命に習はせるんですから。日本在來の音樂の敎へ方にしても、お挿花にしても、「何故」といふ肝腎な所は構はずに、此處は斯うしてあゝしてといふ部分々々だけを敎へるのでせう。だから、まことに應用の利かない手先の事になつて終ふのです。

「日本現在の學校の敎へ方が皆それぢやありませんか、根本智識がよく築きたてゝ無くて、ちり〳〵ばら〳〵の各方面の事を敎へるから、其事にだけは役にたつても自分の頭から割り出して、自分の眼で見配つて、一ツ新らしいことに當る働きが無い。だから若い娘さん方が學校を卒業しても、紙の免狀は有

るが頭の発狀が無いんですね。「あれも知らない、是れも出來ない」といふので自分も苦しい思ひをするんです。さうかと言つて、限りある時間の中で、學校はさう何から、何まで敎へ切れるものぢやなし。唯土臺の据つた氣轉のきく者さへ作ればいゝんです。

「さう學校を責めても、仕方がありませんよ。今の社會の要求が間違つて居るんだから。女子高等敎育なんといふと直に參政權なぞを聯想する氣早な人があつて、頭からたゝき壞すのですもの。數學や、化學や、文學や、美學やの講義を聞かせる暇に家の娘には雜巾掛だの御飯炊だのを學校で敎へてもらつた方がよい人ばかり多いのでせう。勿論雜巾をかけるのも御飯を焚くのも大變大切だけれども、それだけで妻として母として世が渡れるものではなし………

「分りましたよく〱。責任は學校にもあり、家庭にもありですね。誰が惡い彼が惡いとばかり言つても世の中は良くはならないんだから、みんな夫れ〲働らかなければ……。」

—何故か話の末はこゝに落ちるのです。人を難じ社會を評するのは易いけれども、それならば自分がそれに對してどれだけの事をして居るか。袖手傍觀して居る人ばかりでは世の進歩は怪しいものです。まづお互が自分々々で注意して頭を練る樣にすること卽ち何一つの事をするにも、充分な熱心と眞面目とにて是に當り、決して何事も上の空で見逃さぬ樣にするのが第一歩でせう。社會が惡い敎育の制度が惡いと小言を言ふ時間で細密な注意と精勵とに依て修養いたし、若し力があつたならば之を他の人にも及ぼす覺悟が必要ではありますまいか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女子の高等教育に就て

ジョルタン博士

去十七日午後一時目白なる日本女子大學の歡迎會席上に於て講演せられたるものゝ概要なり、趣旨適切にして我が意を得たれば茲に掲ぐることゝなしぬ。(記者)

私が女子の高等教育の必要を唱へまする要旨は極めて手近い所ろに厶います。今日の世の中は眞に日進月歩でありまして。之を家事上の事に就て申しましも或は電氣を應用するとか或は瓦斯を用ゆるとか其他科學を應用いたしました、發明品が續々と家庭内に入り來りまして、日も尙ほ足らずと申す次第であります。又之を衞生上の事に致しましても、細菌學の進歩や、其他醫學上の大發見は直接間接に家庭に影響を來しまして、家庭衞生は獨立せる學問として成立つ位で實に大變であります。况んや其他の家政經濟の事に致しましても社會が段々進歩するに連れまして、夫はとても之れまでの樣に内を顧みる暇はありませんから、全く妻たるものゝ專ら擔任せねばならぬ樣になつて參りました。然して子女の教育に至つては更に重大でありまして之れこそ眞に母たる者の務めであります。斯く數へ來りますれば今後の女子が是迄の如く低度の教育で、之等のことを如才なく料理し、一家の主婦とし、子女の母として遺憾なく其職分を完ふし得るや否や、識者を俟たずして知るべきであります。實に以上の事ばかりでも、科學的の智識に通じ、廣く且つ深く己が智見を養はねばなりません。

更に今一つは斯く社會が繁劇になるに當りましては、夫は朝から晩まで社會上の事に當らねばなりません。夫たるものは其從事いたしまする事業なり又事柄なりに就ては固より相當の智識と意見とを持つて居る筈でありますから、何も妻の助言や注意は入らぬ、妻は内にありて家事を整理し、子供の守りを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

すれば夫れで充分であるとはよく唱へられた所でありますが、これは實に誤つた意見でありまして、何人と雖も深く我が內情を知れる同情者を要し相談相手を要せないものはないのであります。如何に賢明なる活動家も眞に我內心を了解して、之に贊成し奬勵し又は同情のある助言をなし、注意をするにあらざれば、決して立ち行くものではありません。其尤も適當なる顧問者とは申すまでもなく、妻であります。然らば社會の表面に働く夫の顧問役たるには如何にすれば宜しきか。社會上の事に相應の智識を有し、事物の眞相を洞察するだけの諸般の見識を養ふには、左らぬだに退嬰主義なる婦人にはどうしても之を敎育の力によりて其根底を構へねばならぬと思ひます。

終りに臨みまして私の立場から一言致したい事は**平和問題と女子敎育と云ふことであります。**戰爭の害毒の悲慘なるは今更玆に述ぶる必要もありませんが、唯一言申したいことは、最も多く戰爭の慘害を蒙る者は女子であると云ふことであります。戰爭は母より其最愛の息を奪ひ、妻より其信賴する夫を奪ふ大なる魔の手であります。これがために母は衣食に困窮し、妻は悲しき運命を辿るものが誠に多いのであります。そこで私は世界の平和を第一番に主唱せねばならぬ者は、婦人方であると思ひをるものであります。然るに之れは二十世紀に於ける世界的の大問題でありまして、之を唱ふるとは決して一通りや二通りの困難ではありません。之を唱ふる者は少くとも世界の大勢に通じ經濟財政外交其他の世界的の知識を持つてをらねば、淺薄な戰爭憎惡論では出來ることではありません。

私はどうしても今後の婦人は敎育の力によりて智識の根底を養ひ、何事に對しましても一家の意見を立つる見識を持たねばならぬと思ひます。これ私が**女子の高等敎育を必要とする重なる趣旨**であります。(文責記者にあり)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

貞樣

しのぶ

濱から歸つた夜、椽の釣葱の露の光る下で何心なく新聞を讀で居た—私の目に、飛火の樣に燒ついた黑枠の文字、

「片岡貞子逝く」。

「あらッ貞ちやんが……」

夢中で兄さんの側に走つて行つて新聞を抱へた儘「眞實!?」と慄へた。が添へてある貞ちやん其儘の寫眞を見ては、何といふ餘地もない。

其夜例もの通り奥の間に一人床に入つた。私は皆寢靜まる迄疲れ切つた旅人が休でゐる樣に床の上に座つて居た。

燈が消えて家中ヒッソリしてしまふと、靜かに打伏になつて、まだ呼びなれぬ貞さんの新らしい名を二三度無意識に繰返すと、唯無暗に悲しくなつて「神樣……」と言つた儘、溢れた川の堤の切れた樣に泣いた。二ッの袂を重ね合せて泣きに泣いた。

一言も祈らずに泣き疲れて橫になつた。亂れ〳〵て打つ胸の上に兩手を合せて熱い目を閉ぢると、まざ〳〵と、マガレットの貞さんの姿が浮ぶ。……

◦　◦　◦　◦　◦　◦

もう五年前になる。四月休が終つて學校へ歸つて來ると舍監の先生から

「これがあなたの新らしいお部屋のお子ですよ」

と紹介された時、背丈の伸んびりした目の丸い可愛

い子と思つた。これが貞さんである。其時から三年間、高等科になつて部屋が更る迄、他の子は幾度も部屋替の時かはつたが、貞さんはいつでも私の部屋の暴れつ子であつた。

北海道の大陸的な自然の中に生れた故か、何處か身體の伸び〳〵してゐる樣に、心も優たりとしてゐて隨分亂暴で我儘であつたが、其こせつかない處が私は大好きで、可愛くて〳〵ならなかつた。

……　……　……　……　……　……

「貞ちやん、サアお起きなさい、鈴がなりましたよ」などゝ一度位言つたつて動きもしない。

「サア貞ちやん〳〵御飯におくれますよ」と搖つて蒲團をとつて抱へる樣にしてもムニヤ〳〵言つて居る。無理に座らせると顏を顰めて「今日はお腹だの、お頭だの、諸處痛いからねてゐるの」などゝ駄々を捏ねる。それでも下へ行て顏を洗つて來ると、人一倍圓い目をクル〳〵させて大元氣、「貞ちやん、諸處痛いのはどうしてッ」といふとニコ〳〵して「また明日の朝痛くなるの」。

……　……　……　……　……　……

ふと目が覺めると貞さんが居ぬ。「どうしたの？」といふと「怖い夢を見て目が覺めたの、怖いからもぐつて來たの」と緊乎つかまつてゐる。何時の間にか貞さんは毎晩、私の手を枕にして胸に埋めてねる樣になつた。

「今日ね、私が祈が出來ないから、マヽさんして頂戴ね」

毎晩床につく鈴がなると、部屋の人が皆床の上に座つて、代り〳〵お祈をして寢るのが私の部屋の習いであつた。恰ど貞さんの番になつた時珍らしく斯樣な事を言つたが、私は何にも問ひ返さずに、貞さんの代に、貞さんの愛してゐるお國の人々の事やお友達の爲に祈つて床に就いた。例もは直ぐスウ〳〵と可愛い寢息をするのに、暫らく寢苦しさうにしてゐたが、軈て小さい聲で

「マヽさん、御免なさいね、今日喧嘩したのよ、口惜かつたもんだから、いろんな惡口を言つたり、嘘をいつたりして仕舞たの、もうしないから御免なさいね」

可愛い告白をして心地よさ相に眠つてしまつた。貞さんの軟かい頬に自分の頬を押付けて、なぜ斯樣に可愛いのだらう、と思つた。

……　……　……　……　……　……

貞さんが本科二年の時、一年間其組の譯を敎へた事があつた。何しろ貞さんは子供らしいし、遊び度いが一ぱいなので、私が譯をつけてゐる時は一生懸命聞いてゐるけれども、他の人がつけてゐる時はよく窓から庭を見てゐる。いつかこんな事があつた、貞さんの隣の人が立て譯讀をしてゐる最中、外を樂隊が賑はしく通つた。貞さん堪らなくなつたと見えて、本なんか其處除け、目を丸くして首を伸して感心して覗いてゐる。私が不意に「次を内田さん」と言ふと驚くまい事か、急に本を引寄せて、隣の人に「何處々々」と大騷ぎ、「一人でゆつくりお探しなさい」、と言つて他の人にさせた其時は流石の貞さんも赤くなつて、學校から歸つてからも、めづらしく優しく机の前に座つてゐた

……　……　……　……　……　……

思も色も深い秋、貞さんは洗禮を受けた。丁度日曜學校も私の組であつたので、殊に嬉しく思ふた。其日の午後は同室の小さい子と皆して貞さんのお祝にと、秋の景色の額を贈り、貞さんの好きなおしるこを拵へてお祝をした。

其晩床に這入つてから私の耳に口をつけて「きつと〳〵善い人になりきすよ」と囁いた貞さんを抱しめて泣いた。

……　……　……　……　……　……

貞さんの爲には、今思ひ出すのも苦しい程苦い涙を味つた事もある。それは丁度貞さんが洗禮を受けて半年計り經つてから、貞さんはフトした行違ひから私に背き私を僞つた。私は張裂けさうな胸をおさ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

へて直ぐ貞さんを呼んで、慄へながら責めた。貞さんは泣いて、恐ろしさに偽を重ねた。私は悲しむ事も口惜がる事も出來なかつた。自分が貞さんに持て居た深い愛に對し、厚い信に對し、其樣な醜い事は出來なかつた、かく迄愛し、かく迄信じた其自分の誠の心に、そんな辱を與へる事は私は堪られなかつた、私は心を平らに保つだけの誇があつた故に、夫れ以來私は默つて凡てを堪へた。

貞さんの唇から漏れる言葉は絶えず濁つた反響を私の胸に響かせてゐた。併し心苦しい一年間私は、私の唇に貞さんの名は繰返さなかつたが、貞さんの爲に祈る事を忘れなかつた。

夏休の終り頃貞さんから長い手紙が來た。別にこれと言つて變つた事はないが、其子供らしい文字の中にしみてゐる惱みの色と憐らしい暗さを見て、私は直ぐ返詞を出した。

……　……　……　……　……　……

又秋が來た。

ある夕、疲れて圖書室から部屋に歸つて來ると、机の上に林檎が夕日に美しく照り映えてあつた。それを見ると直ぐ北の國の澄み渡つた碧の空の下に、美しく廣い畑を飾つた其色と、私の居ぬ間にソッと載せて行た人とを思はずには居られなかつた。

暗くなつてから戸を徐かに叩く人がある、私は直ぐわかつた。默つて戸を開けると

「忙がしくなければ一寸……よくつて？」

私は首肯いて外へ出ると貞さんは俯向いたまゝ從いて來る。講堂の後まで二人は無言で靜かに歩行いて來た。細い月が青く光つて、半分黒い影になつてゐる講堂が物凄く見える。

夜の空氣の靜かな冷たさは、酷い程思出を強くさせた。黒い木の影に來た時、私は動け無くなつた樣に立ち留つて貞さんを見返つた。貞さんも足を止めて首を上げたかと思ふと突然「マ、さん赦して………」、私の胸に面を埋めて烈しく泣き初めた。私は貞さんの首に兩手を廻したまゝ泣く貞さんを見てゐた

貞さんは泣く瀬の間に間に

「こんな〳〵惡い子になつて了つて……去年の今頃は……みんな私が惡かつたのです……」

私は一年ぶりで貞さんを抱締めてハラ〳〵と泣いた。ア、去年の今頃は同じ樣にして感謝の涙にくれたのでないか。

貞さんの熱い額に下つてゐるおくれ毛を搔上げ、濡れた頰を拭いてやりながら

「貞さん、もういゝ、ね、解つたら夫でいゝの、さ泣きやんで、ね」

烈しく歔欷をして

「以前の樣に一緖にお祈りして……」

月が雲に隱れて闇が深くなつた木の下で、私は貞さんを抱いたまゝ祈つた。私は其時程強く清い情に滿された事はない。貞さんの「以前の樣な子にして下さい、赦して下さい」と言ふ言葉が絕え〳〵に繰返されたのが、今でも心の底に泌み込んでゐる。

皆が寢靜つてから貞さんを抱く樣にしてベッドに入れて忍足で自分の部屋に歸つた時、私は夜露と涙でシットリ濡れてゐた。

曉方まで私の夢は慄へてゐた。

……　……　……　……　……　……

「まあね、斯樣なに急な積りではなかつたのですが……矢つ張りこれも緣なので御座いませう。遂々定まつて了つたので御座いますよ。貞はね、御覽の通りの小供ですから默て泣くやら怒るやら……私も散散心配して恨まれたり、泣かれたりして、ホヽヽ、つまりませんよ、ほんとに……」

これは貞さんが「父さんと母さんが不意に姉さん處へ來たのよ、嬉しくつて」さ、金曜日に歸宅つたなり四五日學校を休んだので、何うしたのかと案じてゐる矢先、敎場から歸り道にバッタリと廊下で、貞さんと貞さんの母さんに會つて「オヤ」といふ間もなく「あなた一寸……」と應接間に入つてからの話。

「ママ」と言つて呼つた私の目には、俯向てゐる貞さんのマガレットの派手なリボンの色ばかり映つた。

二人を門まで送つてから、庭の桐の下のベンチに腰を掛けて、あの毛の軟かい足の弱い小羊が歩かねばならぬ谷間の道を想ふた時、遣瀬ない感じがしてならなかつた。

………………

「オヤ、日本髪に結つたのゥ」

或日の午後戸を叩きもせずに、二寸程開けて中を覗いてる貞さんを見て思はず笑つた。

「嫌だつて言ふのに……可笑いわね……」

それでも、あばれ令嬢にも似ず、少し赤くなつてゐる。忙がしくつて話をする時もなかつたが、大人氣に見える中に、以前のいたづらッ子其儘の處が殘つてゐるので、心地よく別れた。歸る時赤いハンケチを出して口を拭きながら

「これ貰つたのよ、」赤い唇を一寸曲げて白い歯を見せた。

………………

「一日二人つきりでお話がしたう御座います、どうぞ〱來て下さい、お願です」といふ端書が、逗子の別莊から來た。貞さんが新しい生涯に入る。前に是非言ひ度い事がある。飛でも行きたかつたが、卒業試驗、文學會の前でどうしても行かれなかつた。

………………

卒業試驗の濟んだ夜、寄宿舍生が送別會を開いてくれた、其時フト多數の集りの中に貞さんの圓い目が此方を見てゐるのに出會つた。一部が終つて余興に移らうとする時、一寸機を見て廊下に出ると、直ぐ貞さんも出て來た。「よく來られてね、」「ヤッと……。」

十時の會の終る迄、客席から時々貞さんの面白そうに余興を見てゐる横顔を眺めてゐた。會は嚴かに初つて、余興で賑やかになつて、最後の別れの歌でしめやかに終りを告げた。貞さんと二人床の上に跪づいたのは十一時頃であつたらう。

「神樣私は嬉しくつて〱仕方がありません、神樣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私は實に弱くつて直ぐ過つた道に行つて了ふものですけども、いつでも愛して護つて下さると思つて一生懸命致しますから、いつでも〳〵一緒に居て下さい……そしていつでも私の爲に祈つて下さる方があるのを忘れません樣に……お祈によつて强くして下さい…… 私共はもう二人で斯うしてお祈する事はないかも知れませんけれども……お祈は一人の天父が聞いて下さるのですから……」貞さんは甚く啜り上げて何かもつと言はうとしたが、かすかに「アーメン」と言つた。

横になつたのは十二時過ぎであつたらう、夜番の音が淋しく死人

の樣な寄宿舍に響いた。貞さんは昔の樣に私の腕を枕にして胸に濡れて熱くなつてゐる顏をあてゝ、時々しやくり上げながらいつかスウ〳〵と眠つて終つた、ア、此夜が貞さんとの長き〳〵別れであつた。

「もう二人で斯うしてお祈する事はないかもしれませんけれども」が痛々しく繰返される。

…… …… …… ……

三月の末結婚の招待狀が來た、人に賴んで貞さんの「どうぞ來て下さい」も屆いた、併しどうしても行く氣になれなかつた、神の祝福を其式場で祈れる心になれさうにもなかつた。私は獨り遙かに其日其時を覺えて嬉しいとも悲しい

ともつかぬ思にみたされて居つた。

……　……　……　……　……

四月の末頃青山の新らしいホームから音信があつた。

只今下より二階の八疊私の部屋に參り、机に凭れて唯ボーと致して居りましたら、書生が「お手紙」と言つて持つて來てくれました。見ればマヽからのお手紙、堪らなく懐かしくなりました。開く前に五分程唯眺めて居りましたが、胸を動悸々々させながら開きましたら、例の如く色々のお話し、身に泌み／＼と致しました。何ですか懐かしさと難有さで思はず紙を濡しました。過去の樂しかつた事を想出しながら、何處も／＼讀みかへして居りますと、マヽ樣の御樣子があり／＼と浮びました。私も幼く弱く時々は自分で自分を危ぶみますが、直く神樣は、幼くても小さくても分に應じて御用を吩咐けて下さると思ふて嬉しく思ひます。時々自分の信仰の薄い事を深く感じますの。今日はマヽからのお手紙で、眠つて居る心が醒めました、そして何となく新らしい感じが胸に出て誠に嬉しう御座いました。十六日（結婚式日）は生憎日曜故皆樣お出でにはなるまいと存じながらも出した譯です。夫でもマヽが私の爲祈り、又思出して下さつたので心強く思ひました。（下略）

……　……　……　……　……

其後八月の十七日に貞さんの母樣からお音信を得た。

「思ひ出すと胸が裂ける樣で御座いますが、お言葉に甘へ貞子の最後の樣涙ながらに申上ませう……今だに貞子が死んだとは、どうしても思はれません。た恥かしいながら何も手につかず、貞子の事ばかり考へて居ります……

眞白な衣を着て、日頃さしなれた華簪にすつかり圍まれました貞子の姿は、親ながら天使の樣で神々しく見えました。今にもパッチリと目を開けて笑ひさうな顔をして居りますので、どうしても眠

つてゐるとしか思はれませんでした。其を葬らねばならなかつた私の心、お察し下さいませ……」貞様の母君の涙は一字々々にしみて、細々としたお手紙がしつとり重かつた。

春が接吻をしたばかりの若い花は情の露に笑む姿も見せずに音もなく散つてしまつた、けれども私の胸の底ふかくしみこんだ、その花の濃い色と香は永久に悲しい思ひ出となつて生きる。

あゝ冷たい秋である。

…… …… …… …… …… ……

草の實

野口せい子

草の實はぷちと彈きて土に行けりたゞ行きずりをふれし袂に

髪おどろあらしのあとのコスモスは疲れてねむる狂女に似て

物のいろ物のひびきの余りにもあざやかなるぞ秋はさびしき

初秋や利根の河瀬に鮎肥えてまつとしもなく人の待たるゝ

夕さればよぢれてぱつと花となる月見草に湧く淡き悲しみ

心の戸四方ふさがり腫物にうみもつ如きむねいたさする

こぼれ實を拾ふ小鳥の器用さに讀みてかへしぬ思出の卷

（以下北原白秋氏のおもひでを讀みて）

甘酸き味ぞしみいづおもひでを讀みて三度すなほあかずあり

十五まで令孃そだちのわれなりし柳河こひし水のふるさと

墓の如すたれし町のなほ戀ひしおさめなりし日の我も埋るゝ

雜錄

東京の貧民窟

東京市萬年(特殊)尋常小學校長
坂本龍之輔

何たるあさましさぞ

私の學校に金太郎と云ふ極めて卒直な子が居ります。頭腦がいゝの成蹟が勝れてゐるのと云ふ譯ではありませんが、斯様な正直な子は、噓言を云ふ事を何とも思つてゐない、貧民窟の中では本當に珍らしいものですから、私は非常に目を懸けてやつて居りました。此子は何でも隱す事を知らない無邪氣な性質でして、今日家へ巡査さんが來たら、お母さんが急いで何かを押入の中へ隱し、其上へ襤褸をかぶせて知らん顔をしてゐたら、巡査さんが上つて來て押入を調べたけれど、ボロ許りなので見付けずに往つて仕舞つたなどと、此方から聞けば正直に答へる子でした。

兩親は貧民中の貧民で其日も過しかねると云ふ連中でしたが、父親の稼で何とか凌いで居りましたが一寸した病氣が原因で、父親は死んで仕舞つた。之れからこの先を如何して送る事だらふと心配して居りますと、一週間目に母親が金太郎を連れて學校にやつてまゐりました。今日は亡夫の初七日に當りますから、此子を連れて墓詣りに出掛たいから、今日一日金太郎を休ませてくれと云ふ願でした。言ふ言

葉が洵に殊勝ですが、見ると昨日とは全然變つた母親の容態、浮々しい丸髷に赤い手柄を懸けて、着物もツギハギのない小薩張としたのを着、帯も黒繻子かなんかをしめて居る、之が亭主が存命中でさへおどろの髪にボロを纏うて、繩の帯をしめてゐた人であつたのを、餘りに激しい變り様に、私はフット斯う思ひました。之は此邊に能くある例の、こんなに着飾つて墓參をだしに耻しい商賣にでも出かけるのではないかと疑ひましたので、私は色々に問ひつめた。すると女は一昨日同居人を入れましたと答へる同居人と美服の關係　、それぢや、お前さんは御亭主を持ちなすつたんだねと尋ると、流石に俛首れて只はいと許り。嗚呼何たる淺ましい事であらふ、夫が死んで今日が初七日、それに一昨日男を入れたと云へば正に四日にしかならぬ。私はあまりの事に怒心頭より發して如何うしても堪へられぬ、私は其不心得を追窮して大聲に叱り飛ばした。女は泣き出しましたが、何うしたものか、私は腹が立つて〳〵如何する事も出來ない。若し之が身内の者でもありましたなら、二つか三つの拳骨は頭上に落ちたであらふと思ひました。

暫らく經つて様子を聞くと、今度は夫婦して金太郎を虐待し出したといふ噂、其爲に金太郎は家にも居附かず、知合を毎晩泊り廻つてると聞いて、私はまた腹が立つて來まして、早速近處に居る其女の母親を呼びつけて、お前さんの娘は不埒ぢやないか、そんな男は追ひ出してしまへと迫りましたが、えゝ妾も氣が付んではありませんですが、何分活計の方が苦しいものですから、彼の娘も離れる事が出來ないので御座いますと云ふ答、それでは金太郎だけでも始末をしなければいけないと申しました處で、手も足も出ない連中ですから、結局私が金太郎を引とつて、飯代だけを拂つて他所に預けてあります。

三文の價値もなき貞操

渴しても盜泉の水を飮ます、死しても操を瀆さな

いとする覺悟は誠に尊い清い心で、之れあるが爲めに一般の家庭道德が確實に維持せられて行くのでありますが、然し斯樣な事はこのあたりには通用しない事柄で鐚三文の價値もありません。衣食足つて禮節を知ると申しますが、人生に於て生きて行くといふ事程痛切な直接な問題はありますまい。食はないと死んで仕舞ふ。夫に死なれた妻、父を失つた子、これ位儚ないものが又と世にあろふかと思はれまするのに、其日其時から生きる事におびやかされるのであります。親戚緣者に賴つて見る、御互に其日暮しです。雨でも降り續くと粥さへすゝれない逆中で而も生きんが爲めには恥しいと云ふ事を忘れて仕舞つた人達ですから、後添を迎へて幾らかづゝを入れて貰つたらよからふとすゝめる。例へ殘されたる妻が多少の廉耻心があつたとしましても、周圍がかう云ふ風であつてみれば、金の貸し手もなし、保護の與へ手もありませんから、夫の死んだ其日からでも他の男を家に入れると云ふ事になるのであります。

男の方でも木賃宿に手鍋をさげてくすぶつてゐるより其日の稼高の幾分かを入れゝば女が身のまわりの世話をして吳れると云ふのですから、呑氣な考から何處へでも轉り込むと云ふ有樣、而も亦そんな事を何とも思つてゐない、男女の多い貧民窟の事ですから貞操がどうの、かうのと云ふ餘地がないのであります。子供の遊びからして違ひます。普通なら飯事を遊ぶ處を、此所らでは、私達は貸座敷遊と云つて居りますが、お女郎ごつこと云ふのをやつて居ります。無邪氣な子供の中から斯る有樣ですから、全體が推し計られるのであります。此の學校の上級の生徒には貞操と云ふ觀念は全然認むる事が出來ません娘なら年頃になつて、酌婦なり藝者なり娼妓なりに身を賣つて、二三年の後小奇麗な姿をして手土產でも持つて里に歸り、近所の衆でも招待してお壽司でも御馳走すると云ふのが、もう此上もない出世なのですから、親でも之を自慢にすれば子供も之を理想にして憧憬れると云ふ狀態ですから、貞操と云ふ事

は此處では意味のない姿になつて居るのです。

懶惰が造る罪悪

掠奪結婚でなければ體がよくつて自由結婚である。僅か許りの借金のかたに十四歳の小女が妾として連れて行かれた例もあります。三圓の家賃だけを入れる約束で見知らぬ男を亭主にするが如きは珍らしくありません。三人の子供を連れて學校に來た母親に、子供の父親はと聞くと、三人が悉く別な父の子だとの返事を得た事もあります斯ふ云ふ例を擧げれば數限りもない何處を見ても闇黒です人間の原始時代を目の當り見る樣な氣が致します之は生活の壓迫が習性を造つた結果で、其根底は實に深いものがありますけれども、私は必ず救濟の道があると

信じて居る者であります。

貧民窟の通弊は萬事が甚だ不眞目で無責任なる事であります。如何に其日に追はれて居るからと云つて、結婚の屆出もしなければ出生の屆出もしないとは呆れた話ではありませんか。私は此學校に來てから無籍の子供をどれだけ取り扱つたか知れない。敢て屆出ばかりでありません。嫁にやる夫に貰ふと云ふ最も大切な場合にでも、お互に身許を調べるが如きは夢にもしない。何處のものとも分らない、今迄は如何云ふ事をして來たものか一切知らないで、只身體が達者で稼がありさうだ、あの男なら差當り食ふには困まらないだらふと云ふので、何の事なしに一所になるのであります。子供をつれて來る母親に就いて聞きましても、子供の父の身許や、前身を知つてるものは尠ない。大概は貧民窟に流れ込んで來た以來の事きり知らないし、又知らふとも思つてゐないのであります。斯の如き目前の都合を許り考へて、輕卒な不注意極まる結婚をするからこそ、合せ物は離れもの丶格で、面白くなくなれば容易に離れて仕舞ふのであります。斯る事情が幾囘も〱度重なるに從つて私生兒は益々多くなり、從つて生活は益々困難となり、一般道德の觀念は地を拂つて消えて仕舞ふと云ふ狀態が、長い年月の間蓄積し現在の有樣を形成して居るのであります。斯る有樣で構成さるゝ家庭に（家庭と稱し得るか如何かも分らないけれど）何等の樂しみがないと云ふ事は明かであります。夫れ故男も其日稼いだ錢の半分は居酒屋で飲んで仕舞ふと云ふ有樣ですから、歸れば如何の斯うのと喧嘩が始まる、子供が泣き出すと云ふ騷ぎで、此の間から數限りもない罪惡が生れて來るのであります。

救濟私案

私は以上の現象の重なる原因を不誠實な、無責任な抛げ遣りな心に歸したい。若しも少し眞面目に相手方を考へ、身許も調べ相談も固くした事なら、現

在の事故の半分以上は減ずるだらふと思ひます。夫れ故私は救濟の方法として次の事を主張したい。卽ち玆に結婚媒介の機關を設けて、結婚を取り扱ふ上に於て極めて眞摯なる態度と、嚴肅なる儀式を取つて彼等に見せたならば、長い間には彼等と雖も必ず覺醒する時機が來るであらふと思ひます。確實なる身許の調査によつて生活の困難におびやかされる機會が尠くなり、嚴肅なる儀式によりて輕卒な不眞面目なやり口を改むる事が少しでも出來たならば、それだけ又家庭の空氣が改善される譯でありますから必ず相當の効果を收むる事が出來ようと思うて居ります。然しそれだけでは完全ではない。一面又物質を以て助くる機關が必要でありますが、之は長雨が續いて職業がないとか、或は病氣其他の災難で實際生計に困難すると云ふ者に相當の補助を與へればよいのである。一體現在の世で眞面目に働いて食へないと云ふ理窟はない筈である。理窟許りでなく事實に於てそんな事は必ずない。此邊の人々にしろ、一日の稼ぎ高は相應にある。それを酒やなんかの爲に大半を浪費して仕舞ふから飯が食なくなるのでありますから、力量相當に勞働をすれば決してこまる譯はないのであります。夫故私は救濟の第一義は眞面目な心を彼等の胸に植えつける事より外にないと思ふのであります。今の世の慈善事業と云ふ者は、惡くなる其源を改めずして、惡くなつた其結果ばかりを取り扱つてゐる。而も之が爲めに莫大の金を費しても、源に濁水が湧き出てゐるから其末に於て之を淸まさうとかゝつても、永久に澄む事はありません私は思ふ、世の中に斯んな愚な事はないと、流れの末を淸まさんとする金と努力の幾分を割いて、源に於て湧出する濁水の穴を防いだら、慈善事業の効果は割合に容易なものでなからふか、餓え渴けるものは一杯の水で陷るゝ事も出來るし、又救ふ事も出來る。私はかくして陷れられた澤山の人の跡仕末を多大な金錢と勞力とを以て行ふよりも其最初の一杯の水で救ふ方が遙かに効の多い事を信ずるものであり

ます。

先日も十九になる工女が親の爲に吉原に身を賣つた。六ケ年で二百六十圓の約束であるが、實際親の手許に入つた額は百十八圓六拾錢であります。之を一年に割りあてると二十圓足らずの金である。下女奉公をしても三十圓以上は取れるのであります。それで私はつくぐ思ひますに、既に墮落した人を救濟する事も大切な事に相違ない。然れども僅かの注意で最初の墮落から救ふ事は尙更大切な事ではあるまいか。私は世の識者が只に其末に走つて源を忘れて居るのを見て殘念に思ふ者であります。（楠男生記）

愛生產院に就て

金子貞子

金子貞子姉は本誌の同情ある讀者にして、夙くより愛生產婆看護婦會を組織し、斯業のために貢獻する所ろ多い方である。今回多年計畫せられた愛生產院を建てる事となり、府下大森町に地を相し去四月より工を起し、此月の中頃には落成開院式を擧ぐる筈である。左に揭ぐるは去二十日女史を京橋南鍋町に訪ひて聞き得たるところである。

此事業を始むるに至りました動機は、良人がこれまで典獄を致して居りましたので、私も何時とはなしに女囚人の犯罪の事情などが分つて參り或は墮胎であるとか、嬰兒壓殺であるとか、大抵の女犯罪人は、殆んど皆其初めは不義の結果で牢に入れられる。一度縲紲の身となるや、自暴自棄のあばずれ者となるを見まして、これは不義姦淫の結果にせよ、兎に角不義のための姙娠でも其場相應の善後策を講じてやると云ふことは必要である。斯くして生れた兒は夫れくに處置をつけてやり、本人には篤と訓誡を與へてやるならば、必ず女囚の何程かを減少し又一方には毎日の新聞紙の三面にある姙婦の鐵道往生や、入水する者を救ふことが出來るに違ひないと

考へた事に起原して居ります。其後明治三十八年に愛生產婆看護婦會を設立しまして、其事業の傍ら之れが計畫に心掛て居りました次第で、實際の事業は夙から致して居りました譯であります。

夫れで此事業は只今申上げました、外に尙一面の仕事が御座います。夫れは貧民のために助產施療をいたすのです。然し此方は至極短簡でありまして、彼等は唯だ出張して助產の勞を取つてやり、少しく金でも惠んでやれば夫れで滿足いたしますので、何も入院してお產をする必要もなし、且つ生計上、家を置いて來ることは彼等には出來ないのであります。ですから此方に於ては去る四十一年以來、芝の濱松町、深川の富川町と、府下川崎町とに出張所を設けて專ら貧民の助產をやつて居ります。

今日まで助產施療いたしました概數を擧げますれば去四十一年六月開設以來、十二月まで三十七名、四十二年中に五十四名、四十三年中に五十三名で御座いまして、本年に入りましてから、去八月まで七十余名で御座います。大森の本院の方は誠に閑靜な景色のよい處でありまして敷地坪數六百五十四坪、木造西洋館の二階建で、建坪は六十五坪階上が六十三坪、病室は三十人を容るゝに充分であります。工事は去四月十八日棟上式をいたし、最早殆んど工を竣へましたから、此月の半頃には開院式を擧げる運びになりませう。

此事業に就きまして世間では、そんな仕事は一面から云へば敗德を奬勵するもので、そんな病院が出來るならば、世の中の墮落婦人は、それは誠に結構な所が出來ましたと、身の始末をつけて貰ひに來るであらう。卽ち不義の奬勵をする樣な事になりはしないかと批評するものがあります。而し之は誠に人を侮辱した言でありまして、私の實驗する所によりますと、決してそうではありません。下等社會の婦人は恥も外聞も關ひませんから、貞操など申すことも全く無頓着でありまして私生兒など產むことは犬や猫が子を產むと同じ樣に、本人も周圍も思つて

居ります。即ち前にも申したやうに彼等には助產をしてやり少し金でもやれば喜んで、其日々々の生活をして行くのであります。然るに中流以上になるとそうではありません。彼等は金に屈托はない。私の所に參ります大部分のものは此中流以上のもので、其家庭は相當に暮してをつて、食ふには困らない人達ですが、何かの誤ちから道ならぬ事を致し、其結果姙娠となり、家のため父母のために死ぬに死なれず。遂に爰に參ると云ふ次第で、其間には隨分悲慘な覺悟をいたし、小說よりも哀なるものが幾人あるか知れません。こんな風であるから彼等は金の問題よりも、自分がどうしたら世間にも知られず、父母の名譽も毀損ずに、此を始末すべきかが、痛切なる彼等の問題で、そのためには金錢は惜まないのである。普通の產婆とか開業醫などの或ものは、斯る人の弱點に乘じて不當に金を貪る者が居りまする。また小間使とか金持の子供さんとでも關係したとあれは醫者や產婆までがグルになつて、金錢を貪ぼる人もあるのである。私はソウ云ふことは嚴格に之れを戒めて、そんな筈のものでない、お前自身も惡いのだと說いて聞かせます。且つ又私共への費用はコンナ人にも實費丈け頂くことにしてゐます。こんな樣に青年の女子が一度此の姙娠といふ事になりますと精神上に非常な苦悶をいたしますから、常識を備へた程のものは再び斯ることを重ねるまいと堅い〱決心をするのです。殊に其時私が諄々として其非を諭し、しまひには共に泣いて懇々と今後の心得のない樣に誨ゆるのですから、大抵はもう改悛して仕舞ひます。現に或婦人の如きは、つく〲男といふものが恐ろしくなりました私は生涯獨身で貴下の御事業のために身を捧げますと申してをる人もありまして、論者の云ふやうな婦人は先づ無いと申しても過言でなからうと思ひます。私共に參ります婦人は大抵はもう朝から夕まで泣き暮して居ります。人生に出產程目出度い事はありませんのに、彼等は其出產を呪ふのですから、世の中にこんな悲慘な事があり

ませうか。其罪を惡んで其人を惡まず、一旦の過ちは實に惡むべしでありますが、其まゝにしてをけば自殺をするか、墮胎か、壓殺か、何れ免れぬ人道上の罪惡を犯すのです。之を救ひ、此機會を利用して彼等の心靈を呼び醒まし、眞に人たるを得ば其幸は獨り本人や其父母のみではありません。實に國家社會の幸福であらうと思ひます。其善後策を講ずるに當りましては事件の行き掛り上、實に種々樣々の事が落ちかゝつて參ります。例令ば生兒の處置とか、私通でありますなら、纒まる見込みの者は双方の親に交渉してまとめてやるとか、或は又將來の方針を立てゝやるとか、全く一種の周旋屋みたやうなものでムいます。時には實に泣きたい位な事もありますが私は全く一の傳道と思つて、此生死の間に煩悶してゐる時彼等に人倫道德の根底を握らせる樣にと、夫れ許り考へて居ります。つく〲思ひますれば誠に重大な任務でありまして、前途を危ぶむ事もないではありませんが、大能の神に凡てを一任して、唯だ忠實に熱心に其の日〲の職分を盡す積りであります。（談話筆記文責記者にあり）

原町に住むの記

聖山生

大阪の基督敎世界社から招聘を受けて、東京を辭したのは四十年の春で、都はまだ餘寒の肌をつんざく頃であつた。たしか木曜日の夜であつた。祈禱會のあとで先生と野口先生とが、もう遲いからとて、本郷の電車まで送つて下さつたのであつた。僅かな言葉の中に、無量の敎訓否箴言を含んだ先生のお別辭を深く味ひながら、一種云ひがたき感慨を抱いて新橋を見捨てたことは昨日のやうである。爾來四年有半、熱心な濶達な加藤主筆のもとに、凡骨に鞭打つて何かと働いたのであつた。だが元より何の貢獻

する所もなかつた。そうして煤煙と、道の狹いのでいやであつた東洋のマンチエスターにも馴れて、好きでない迄も嫌でなくなり、アカンだの、アホラシイだのといふ、二三の大阪辯も、無意識に口に出すまでになつた。時間と云ふは妙なものである。

ところがあとの八月、いろ／＼な都合で世界社を辭る事となつた。此時に當り、僕は再び東京の生活を思はぬでもなかつたが、東京と云ふと就職難と云ふことを思出す。學士方や相當な肩書のある方が、ゴロ／＼して居らつしやる東京に、我等風情が行つたつて干からびる外、仕方はあるまいと、大悟徹底して矢張好きではないが、辛ふじて嫌でなくなつた大阪に踏み止まると決心し、大方行先もきまりつゝあつた。然るに空谷の跫音、海老名牧師から新人社に來れとの御手紙である。僕は辭職の事情と其の責任の重大とに就て腹臓なき意志を發表したが、牧師は兎に角來よとの電報である。そこで僕は萬事を全く大能の神と、先生とに打任せて、茲に一大勇猛心をおこし上京と決心した。荷物の取まとめや、暇乞ひや、事務の引つぎや、何やかやに思はぬ時間を要して、九月六日の夜やつと梅田を辭することゝなつた。加藤主筆や澤村先生や其の他諸牧師先輩や、友人知己等男女數十名がわざ／＼お見送下さつたのは感謝の言葉がない。愈々分れるとなると、いやなものである。

車中は別に記すことはない。唯だ是迄幾回となく通つた東海道を、今度は妻と云ふものを連れて通るのがチヨツト新らしい感がした位のことである。名古屋には僕が受洗の牧師なる手塚新氏が居らるゝ。一寸立寄つて久濶を敍したいが、時間は許さないし又恰度、弘前メソヂスト敎會の三十年紀に招かれて北行せられて居る筈だ。清見潟のほとり樗牛の墓の近くなる清水港には、心友稻葉君が今年の春から傳道を開始し、種々の迫害に逢ふて、一人淋しく孤軍奮鬪をつゞけてをる。寄つて一泊して清見潟の夏を恣にせよとの切望だが時がない。何とかして酬だ

けでも見合せて行かうと前以て通知など出しておつたが、思へば此汽車は江尻にも興津にも寄らない。罪なことを云つてやつた、嘸ぞおこる事であらう。興津で夜があけた、昨夜來の雨は少しも晴れぬ、雲は重くたれて、富士も見えぬ。此わたりより以東は僕の殊にくわしき所、天氣なれば朝の東海の絶景を説明して、初旅の妻君を慰めやうと思ひしも、雨は益々ふりて雲は愈よ深い。此邊は汽車や徒歩で十數囘も往復したが、未曾てこんな天氣に逢たことはないと云へば彼女はすかさず、稲葉さんの恨みでしようと云ふ、兎に角困つた空であつた。所ろが箱根をこゆればガラリと晴れて旭陽は今日も暑いぞと云ひ顔に東天に輝き今までの天氣が丸で夢の様である。七日九時新橋につけば誰も居まいと思ひの外、群集の中に帽を振らるゝ方がある海老名先生であつた。我等は嬉しさの餘り思はず、マー先生ーと先生の兩の手を握りしめた。

一先づ昔の古巣なる千駄木林町の井上と云ふ下宿に落着いて、疲を養ひ、徐ろに御輿を下ろす所を探すことにした。僕は其晩早速新人の編輯會に出席した。新人社が來たので大に相變つた林町の御宅、庭の木々はいやが上に茂り、昔ながらの柿には今年も實りて稍赤い。道子孃、綾子孃、雄二さんに、更に一枝孃、彈夫君を加へ、ズラリ並んで「入らつしやい」と出られたのには少からず面喰つた。皆見違へるやうに大きくなられたからである。相原、大塚、森脇、藤田の諸兄は既に來て居られた。相原兄の外は皆其名を知つて而して其お顔を知ない方である。それに加ふにる先生と奥様。編輯會とは云へど實は一種の氣焔會、名論卓説があらぬ方向に轉流して編輯長の大塚兄が幾度となくあとに引戻し、やつと話がまとまるのである。何と何、何はどう、彼はかうと手配が定つたのは十二時近きこんで、實に愉快で少しも疲勞を覺えなかつた、

いろ〳〵と苦心して探して、やつと一軒の家を見出した。夫れが即ち小石川原町四十一番地の僕の住居

である。白山神社の森の下で、土地稍高く、日當りのよいチンマリとした家で、電車にも近く、新人社にも近い。本郷教會の松尾傳道師とは生垣一重である。いよ／＼居が定つたとなると、通知である。幾ら書いても果てしがない。僕もとう／＼ハガキ主義になつた。封書なんかではやり切れない。又來るのも來るものだ。僕は今までこんなに手紙を貰つた事はない。新女界の取上げ婆さん、一名野口精子の君から、時を移さず一葉飛んで來た。「知らぬ間に東京の人となり濟して居らつしやいますね。之からは時時お目にかゝれるだらうと樂んでゐます。さぞお骨が折れませうが、思ひ子が又ゆかり淺からぬ人の手に育まれる樣になつた其ゆかりをなつかしみます。一日暇を見てゆつくり入らつしやい。赤城の秋、利根の秋、目にも口にもうまきもの、限りあらずであります」なんて相變らずうまきものである。この外種々面白い手紙を頂いたが、返事さへ出せぬ場合だから何も申すまい。

厚い大きな新人より、薄い小ッぽけな新女界の方が骨が折れる。原稿が多くは訪問だねであるからである。三谷女史に行つてオルヅオースの話を聞いたり内ケ崎先生に行つて大氣焔にあてられたり。先生の說教をかいたり、ジヨルダン博士の講演を書いたり訪問をしたりしてる中に眞の締切期日が來て仕舞つた。サアもうこんな無駄口をきいてる閑はない。

（二十日夜原町の寓居にて）

新刊紹介

子供の權利　田村直臣著

模範的日曜學校の校長として兒童研究の大家として重きをなる田村先生が多年研究の結果を一冊として發表せられたものです。一寸中をのぞきますと「兒童の意志」と云ふ事にこんな事がありました。「お前さん學校に行かぬなら押入にいれるぞ」と云ふのは少しも子供の意志を重ぜぬのである。學校に行くか押入に入るか、どちらでもお前の自由にするがよい」と云へば子供は自分の自由意志に訴へて決します。押入れには入ると云へば入れてをくがよい。と何處を見ても有益な文字ばかりであります。父母兄姉方に是非とも一讀をおすゝめ致します。

（菊番美本　定價五十錢　東京警醒社發行）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時代の變遷と母親の覺悟

海老名みや

世の中は三日見ぬ間の櫻とは昔の人も申ましたが春逝き夏來つて、騷々しい蟬の聲がゆかしい虫の音にかはるまで、僅か數ケ月の間に、我々の近しい周圍でゝもどの位樣々の變化がありましたらう。悲しいことから申ますれば世に二人とない親を失つた人最愛の良人や妻に別れた人、掌中の玉であつたいとし兒を天父の御手に委ね、さては兄弟に別れ姉妹に別れて人生の慘事を味つた人々を算へますれば、双の指を二度繰返しても足りない程であります。其他病魔の爲に肉に於て靈に於てなやめる人々は幾人ありましやう。又世の荒波にもまれ〳〵て靈も肉も粉碎されんとして烈しき苦痛をなめつゝある人々も一人や二人ではありませぬ。此方面のことのみを見てをりますとア、この世はいやだ苦しい世界だと自然と歎聲を發したくなります。然るに一度眼を他面に轉しますとこゝは又別世界でありまして、人生の最嬉しい婚姻の式に幾回連なりましたらう。久しく病魔に捕はれて再び起つことが出來やうかと人も自分もあやぶんで居た人が全快して以前に勝る體力を以て其晴々しい顏を見る時は實に嬉しいではありませぬか。數年前海外に送つた友を待ちこがれた妻子や親しい友人等と埠頭に迎へる時の嬉しさは亦眞にいひ難いものであります。或は研學の効によつて博士の稱號を得られたり、又は年若い青年が今年こそは

と大意氣込で懸命に勉強した甲斐あつて見事競爭試驗に及第して新らしい白筋の帽を被つた得意の顏を見る事は眞に嬉しい中の嬉しいことであります。この様に嬉しいことや悲しいことが交々起り來ります間に世は様々に移り變つて行くのであります。其變化のはげしいことは實に驚くばかりでありまして恰も汽車の窓から外をながめて居る様でちらり〳〵と見る間に金の鯱も濱名の橋も通り過ぎてハツト氣付けばもう身は京都のステーションにあるといふ様な有様であります。つひ數日前のこと六七年も他に行つて居られた友が參られまして久し振で四方山のはなしの折に何々さんはどうなさいました誰さんは如何と尋ねられますに其方々は或は永眠せられたり他國へ轉居になつたりして何の變動もなくして居られる人々は誠に少數でございます。ア、私は浦島の様ですねえといつて淋しく笑はれましたが、眞にそうです少しうつかりして居ますとどの方面にも浦島になつて仕舞います。人事の變動もはげしうございますが物質の變化は尙驚くばかりであります。今より八九年前でありましたらうか、女子大學の炊事場で瓦斯を用ひてあるのを見まして、ア、調法なものだ個人の家々へはやく引用される様になり度ものであると考へましたが數年ならずしてホツ〳〵使用し初めました。此頃では到る處瓦斯管のひかれない處はなく家々でさかんに燈火に熱用に使つて居ります。瓦斯を使用し初める一年程前に五圓程出して求めたランプがありましたから使はないでおくも無用だと思ひまして屑屋は賣り度いがいくらに買ふかと申しましたら七十錢なれば頂きましやうと申しました。あまり馬鹿々々しい様な氣がして賣らずに置きましたがあまり邪魔ですから此春又聞いて見ますと今度は二十錢だと申ました。それも其筈です今時分ランプなぞ田舍へでも持つて行かなければ賣れますまい。水道電氣瓦斯の應用につれて東京市街の發展は實に目醒しいものでありまして遠いと思つた處も近いと感ぜられる様になりまして郡部の方迄ドシ〳〵廣ま

つて參ります。小石川から麻布の親類を訪問するに多くの車代を費して一日がけで行つたものが、マア四半日もかゝらずに出來るといふ樣になりましたのは何んと變化ではありませぬか。其樣なわけで婦人も自ら足が輕くなり親戚友人の交際さては何々の集會と外出の數がふへるにつれ、世の中が複雜になり忙がしくなりまして見るものきくもの皆刺激の種ならぬはなく、内氣な婦人もいつとはなしに活氣立ちて參ります。これ婦人にとりて家庭にとりて大變動を與へるのであります。

言語の變化ばかりでも實に驚ろくではありませぬか。十數年前東京を去つてある地方に行て居らるゝ友人が、たまさか東京へ出て見へまして其おはなしの中に「日暮し」だとか「筋かい」だとかいふ言葉をききます毎に一種のなつかしい感を起しますが恐らくお若い方々で日暮しといつてもどこだかすぐお分りになる方はありますまい。いつの程よりか日暮里々々と呼びなして此美くしい響きのひぐらしがきかれなくなつたが殘念ですが、こんな固有名詞ですら變化する位でありますから普通の言語はどの位變つてをりますか分りませぬ。又新らしい言語のふへたことも夥しいもので先づ瓦斯電氣に就て丈でも大變なものです、況んや其他のこと呉服屋に行ても十年前まできいたことのない織物の名何十種ふへましたらう。最も卑近な水菓子屋をのぞいても實に幾種の變つたものがあるか知れませぬ。そしてある言語の如きは其時代々々に著しく多く使はれまして一年二年の中に早きは半年の中に思想の變化とゝもに變つて行くのであす。例へば悲觀、厭世、煩悶、虚僞の如き又は個性だとか、解放だとか此八九年來盛んにいひはやされてをりますが、それが又不思議なもので數年前に用られた言語乃ち悲觀厭世などゝ今時分申ますと如何にも古臭く、なま温く感ぜられるのであります。つまる處これらは其時代の思潮を顯はした言語で若い人々の中に如何に盛んに思潮が動きつゝあるかゞ思はれるのであります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

この樣に活動しつゝある世の中を一通り解しまして後れをとらずに行くとは仲々の勞力を要します。母として、我息子娘の心を解する丈でも務め度ではありませぬか。今の狀態を見まするのに、多くは親子の間に不可解の隔だてがあつて、親子の美はしい境涯にはいり得ずして互に苦しんで居る樣に思はれます。こゝは親の方で大奮發をしなければならない處ではありますまいか。世の母親方よ、私は切に願ます、皆さん「もう私は時勢後れだ」とおつしやいますな。私などがと御謙遜なさいますな。世の中の爲です、我子の爲であります。少しの暇も盜んでせめては新聞や雜誌位はよみまして一通りの事を辨へ又種々のお話しも伺ひまして及ばずながら新らしい智識をたへず得て行く樣に努めたいではありませぬか又若い人々に深い同情を以て其言をもきゝ其相談相手となることは、實に大切であると考へます。世とともに我々も活動の世界には入り、日進月歩の致し度いものだと思ひます。

子供の復習に就て

女子高等師範學校敎諭　西嶋富壽

練習が缺けてゐる現今の敎授法

近頃は小學校の敎授法が非常にやかましくなりまして、兒童心理の研究の結果を直接敎授法に應用致してありますので、之が爲に科學的、組織的になつて行くと云ふ効驗は擧つて行きますが、然し却つて之が爲めに多くの時間を消失して生徒の智識が不確實になりはしないかと疑はれる傾向がないでもありません。と申しますのは、現今の制度では一人の先生が、一組八十人迄の生徒を受持つてもよい事になつてゐますが、よし一組に五十人と致しました處で讀本なぞは精々急いで敎へても二十人にしか復讀を

させる事が出來ません。それですから外の三十八人と云ふ者は全く自身で練習の機會を失つて仕舞ふのであります以前は齊讀と申して、句を切つて一齊に讀ましたものですが、近頃は隣室の邪魔になると云ふので廢止になりましたから、生徒の大多數は唇も動かさず、聲も出さずに歸る者が出來るのであります。之は現在の學校の事

情でやむを得ぬ事でありますが、自分で聲を出して讀むといふ事は、其生徒に確實な印象と智識を與へます點に於て大なる効能があるもので御座いますから私は是非やらせたいと思ひます。それで學校の方では智識を授ける種々の事を敎へ込むといふ事で時間が一杯なのでありますから、練習の方面は各自の家庭で受持たなければ

ならぬ事と思ひます。又學校の方でも家庭に於て練習の方面に注意をしてくれる樣にと希望して居るやうで御座います。

私は斯う云ふ風にやつて居ります

それで私の處では私初め各自職業を持つてゐて晝は出かけるもので御座いますから、夜分皆がまとまつた處で子供の復習を見てやる事にして御座います大概一時間か一時間半位で八時前後に終ります。やり方も學校で習はない先きを豫習すると云ふのでなしに學校で既に習つて來た範圍で、其練習又は應用をやらせるので御座います。宅には女學校にまゐつて居ります女の兒が一人と、尋常二學年になる男の兒と、二人で御座いますが、女學校の方はいろんな學科が多う御座いまして、復習にも時間を要しますから、時間の點や其他の點は弟とは一緒にまゐりませんが、然し學校で可なり遲くまでやつて來て、又家に歸つてからも長時間復習をやらせるのは、たとへ健康な子供でありましても、餘程考へものだらふと思ひます。扨て勉强の時間で御座いますが、一般に申しますなら、清新な朝の中が勉强には適當で御座いませうが、宅の子供は、學校が遲れはしないかと云ふ心配がありますので、ゆつくり落ちついて居れぬと云ふ性質で御座いますから、何時お友達が誘ひに來て下すつても、出掛られる準備を整へて置きまして、夫れ迄の時間を父や兄と庭を掃除したり、植木に水をやつたりして居りますが、性質と事情によりて色々に工夫しなければならぬと思ひます。

放任主義と干渉主義

復習と云ふ事に就ては世間に二た通りの考がある樣で御座います。其一つは復習の不必要を稱へる人で御座います。子供は學校で習ふたゞけで澤山だ。家に歸つてまでもいぢめる必要はない。成績の惡い兒でもあれば格別普通に行ける兒なら、自分から勉

強しようと云ふ氣が出るまで打つちやつて置いた方がいゝと云ふ説で御座います。一應は尤もな説で、干渉的なコセ〳〵しない御考で、子供の自發心を誘導する上には、よいやり方かも知れませんが、然し普通勝れた高能兒なら、斯う云ふやり方で或はいゝかも知れませんが、普通の能力の子供ならば、前申しました樣な學校の制度で御座いますから、子供の智識を確實に頭に入れて自分のものとなし得る迄の事は必ず家庭でみてやらなければならぬと思ひます復習をさせて居る兒と、ゐない兒との比較を致しましたなら、學術の成蹟の上にはさばかりの差違は表はれませんでも、長い時日の上には復習をやらせた子供の方が何處か優秀の點を顯はすであらうと思ひます。も一つの方は復習を極端に勵行なさる方で御座います。朝起きると直に机に向はせて、讀本なら此處から此處迄、算術なら幾題と云ふ問題を出してそれが出來上らない中は泣かうが如何しようが、御飯を食べさせぬと云ふ嚴格なやり方であります。想ふに之は學校の成蹟の善良といふ事許りを頭に置いてなさるだらふと思ひますが、私は斯う云ふやり方に對しては寧ろ反對したいと思ひます。斯る方法は徒に子供の頭腦を傷けて仕舞ふのみならず、子供をして學問に對する嫌惡性を増さしむる場合がないとも限らないと思ひます。

要するに復習と云ふ事は現今の小學制度の下にあつては是非必要な事でありますが、成蹟の優秀と云ふと許り頭に置いてやつたり、又は子供の健康の程度を考へずにやつたりする事は、却つて种々なる弊害を醸す原因であらうと信じます。

火中に嬰兒を救ふ

眼をさました時はもう既に二階は煙で一杯、飛び起きざまに母親は生後一ヶ年の嬰兒を抱き上げて、枕（羽根の入つた大きなもの）を夜具でぐる〳〵と包んで、其上を確乎と太い紐で結んだ。そして二十尺もある二階の窓から、出來るだけ手を下に伸して、道路に落した。そしてすぐと自分は玄関の屋根に這ひ出して、やつと地面に下りた。幸に嬰兒は何處も傷にもならずに、お母さんの顔を見てニコ〳〵と笑を含んでをつた。之は本年三月シカゴにあつた實例で御座います。

隨感

我を忘れて盡す精神

安井哲

人として此世に生れて來た甲斐には、如何なる小さい事でもよろしいから、他人の用に立ちたい者であります。若し皆が他人の便利と幸福とを希つて我を忘れて他人の爲めに働かうと致しましたならば、此の世の中は如何に美くしい者で御座いませう。かかる純然たる犠牲的精神を有つて居る者は、實に人の母であります。勿論多くの母親の中には、吾子を冷酷に取扱ふ者もあり、吾が快樂にのみ心を奪はれて、吾子を打捨て置く者もないではありませんけれども、かゝる人々は異例でありまして、一般には母親ほど我を忘れて吾子のために盡す者はありますまい。そこで吾々も是程までにはゆかずとも、常に吾身を何かの用に立てやうと準備して居ります時には大小に關はらず種々の仕事がある者で、之れに依つて他人を喜ばせる事が出來る者であります。殊に共同の仕事に對して此他愛の精神で、出來得るだけ自分の力を其仕事に捧ぐるといふ覺悟とがありましたならば、其事業は實に神聖で、其會合は最愉快な者となるのであります。然るに人間は誠に我儘な者で あながち面倒な事は盡く他人に押付けるといふ譯ではなくとも、成るべく自分は避けやうとし、自分の仕事と定まつて居る外はまあ爲ぬといふ傾になり勝ちであります。併之れは余り健全な精神ではありません。かくの如き人が一人多數の中にありますと、其他の人々は皆不快を感ずる様になり、爲めに熱心其仕事に從事する人がなくなります。例へば一家の中で夫婦、親子、兄弟、姉妹皆共に其仕事を助け合つて、子は少しでも親の勞力を減せんとし、夫は成

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るべく妻の仕事を輕くせんと努めます時には、如何に忙がしい仕事でも互に快く爲されて、和氣が家の内に充つる者であります。然るに夫は終日内に立ち働く妻に對して何の思ひやりもなく、横の物を縦にもせぬ不精を極め、子は何事も母に依頼して學校の仕事さへすれば、自分の物は皆投げ放しにして置いてもかまはぬといふ樣では、妻たり母たる人一人の負擔が重くなり過ぎて、終には愚痴もこぼれるやうになるのであります。其結果としては家内不和合となるので、誰にも利益のない事であります。又公共事業でも其通りで、少しの勞力をも惜しまず我先きにと働けば、誰でも愉快を感ずるのであります。然るに面倒な事は成るべく之れを避け、誰がしてもよい事は成るべく他人にさせて、表面だけ美くしく現はれるのが所謂怜悧に立ち廻るといふ者であるなどと誤解して、自利の生活を得意とする人が、若しも世の中に増して來ます時には、實に頼母しからぬ社會となり果てます。私共は自己の損得問題を後にして、一家内でも一社會でもが、成るべく樂しい生活をする樣に、老幼男女を問はず自分先づ働くといふ樣な風を作りたい者であります。

親しい間柄は名を呼びたい

海老名みや

此間電車に乘つて居りますと筋向ふに六十ばかりの切髪のおバアさんが腰をかけてをりました。すると春日町で同年輩のおバアさんが乘り込んで參りまして前のおバアさんの向ふにかけました。前のおバアさんはジット今來たおバアさんを見てをりましたが、マア、あなたはおもとさんぢやありませんかお元さんでしやうと問ひかけますとこちらのおバアさんもジット見てをりましたが、エ、そうですよあなたはおみつさんぢやありませんか。マア久しぶりですねへ。不思議な處でお目にかゝつてお珍らしいぢやありませんか、私は駒込にをりますよ。今日は牛

込迄お寺詣りに行んでです。配遇がなくなつてからかうして毎日お詣りをしますの、とおみつさんとよばれたおバアさんははなしますと、お元さんも今の身の上ばなしをする。さも〳〵懐しげに語り合ひますのに、きゝぼれてをります中に電車が水道橋に着きましたので、私は下車して仕舞ましてからも私は其二人のおバアさんが離れられません。この人々は若い時分、裁縫のお稽古や長唄のおさらへなどを一所にした仲よしのお友達であつたかも知れませぬ。何十年の後の電車の中でめぐりあつて珍らしい昔の名を呼びあつて定めし老を忘れたでありましやう。

私の十歳ばかりの頃であつたと思ひます。或日祖母の従妹に當る人が、七歳ばかりの娘をつれて久しぶりで参られました。すると祖母は非常に嬉しがりまして、何さん何さんと其名を呼んばはなしをしてをりますのを、不思議さうに聞て居りました娘は、突然アラー、お母様にもお名があるの？、といひ出しましたので一座大笑ひをしたことを記臆して居ります。考へて見ますと子供がさういつたのも道理です子供等はお母さま〳〵とよびますし、父親も恐らく其妻の名を呼ばないのでありましたらう、無論召使は奥様々々と申すのですから、母親の名を呼ばれるのをきく機會がなかつたのであらうと思ひます。

追々年を取るにつれて女は名を呼ばれることが少くなるものであります。私なども經驗致しますが、たまさか昔の學校友達などに出あひました時、マアおみやさんしばらくねへなどゝ輕く昔の儘に呼びかけられますと何ともいへない嬉しさを感じます。そしてむら〳〵と涸れかゝつた血が湧きかへる様に若やかな氣持になります。大勢集會の中や公の席などでは他人に對する禮として互に奥様稱へもよいと思ひますが、さしむかいの時や、舊友お寄つた同窓會などの席では昔しのまゝの名をよび交して、温かいなつかしい氣持を永久に續け度いものだと思ひます。

煩悶相談部の新設

人生は糾へる繩の如しと申しますが、眞に表面には何事もないと思ひましても内情に立入て見ますると、親にも兄弟にも打明けられない、惱みを抱て居らるゝ方のあることは御互が往々實驗する所であります。夫れで本誌は今回「煩悶相談部」を設けまして、一身の處置に迷ひ、人の世の憂に悶へて居らるる方のために力となり、其相談相手となり、慰藉者となり、及ばずながら解決を與へたいと思ひます。

此頃もこんな問題がありました。或方が「私は一人の從兄がありますが、先方の兩親から私を欲しいと申し、私の家でも兩親初め誰も異見を申者はありません。眞正の血族結婚であります。私は深く〱迷つてゐます。御解決を願ひます」と申して參りました。で、私は「今日の進歩せる學説によれば、血族結婚だからと云つて、必ずしも惡しくない。要は双力の體質、氣質、智力、德性の如何にある。つまり双方が體質もよし、性格も純良だし、頭腦もよく發達した完全な人間なれば、其間に生るゝ兒は遺傳の結果、双方の長所と美點を備へて。更に優秀な人物を出すこと、普通の結婚以上であつて。その反對に双方が病身だとか、性格が不調和だとか、智力が著しく隔つてをるとか云ふ場合には、其子は更に劣等になるとの說だそうです。其邊の事をお考なさつて、去就を決しなさい」と答へて上げましたやうな譯であります。

皆樣の中に又お友達の間に解決に迷つて居る事柄がありましたら、御遠慮なくお申越下さいまし。近頃感ずるところがありまして、此爲めに大に盡したいと思ひます。秘密にすべき事は誓つて永遠に秘密を守りますが、左樣でなくて、他にも同じ憂に沈む方があるやうな問題は姓名は勿論住所も匿名にして本誌上に掲載致したいと思ひます。其邊は豫め御承知をお願ひ致す次第であります。

主任　海老名みや

林町より

△いよ／＼秋になりまして人の心もおのづから引しまつて來る樣に覺ねます。教會では婦人會の働きとして新たに東京にお出でになつた姉妹方を歡迎の意味で去二十四日午後に講演會を開きました。講師は內ヶ崎先生と、大阪の廣岡淺子刀自でありましたが、內ヶ崎先生の婦人解放の眞意義は私共クリスチヤンに大なる勇氣と無限の力を與へ、廣岡女史の二十世紀に於ける日本婦人は中々有益でありました。筆記は次號でお目にかけることになりませう。

△此號に內ヶ崎先生に何か書いて頂くつもりで、お願ひに上りますと。「僕は君、毎日六時間受持つてる上に高等豫科生千二百人の倫理を受持てるんだ。之は僕の理想通りにやれとの事だから、僕は千二百人の教會を持つてる積りなんだ。千二百人集まる教會は日本にないじやないか。忙しいよ、君。」と申されました。それでも來月のには是非いただく考へで御座います。

△又うれしい事はこれから經驗もあれば筆もお立ちになる某夫人が家庭欄をお助けになることになりました。これからさぞ賑ふことで御座いませう。此上ながら皆樣の御健康を祈ります。

煩悶相談部

主任　海老名みや
顧問　安井哲

一、人知れぬ惱みに悶へらるゝ姉妹のために此部を設けました
一、御相談はすべて返信料つきにて成るべくお手紙にお認て下さい
一、誌上に掲載(勿論匿名で)を欲せられない方は其旨御附記を願ひます

東京市小石川區林町四十三番地新人社內
煩悶相談部

本誌定價　一部金拾錢(郵稅共)◎六部半年分前金六十錢(郵稅共)◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢(郵稅共)
外國行定價　壹部金拾四錢(郵稅共)◎半年分前金八拾錢(郵稅共)一ヶ年分前金壹圓六拾錢(郵稅共)

一行廿七字詰	四分ノ一頁	半頁	一頁	内表紙拾二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金拾圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候
●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候
●振替口座にて御送金の時は手數料壹錢必ずそへらるゝこと
●郵劵代用は一割增の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず發行所宛に願上候

明治四十四年九月二十八日印刷
明治四十四年十月一日發行

東京市小石川區林町四十三番地
發行兼編輯人　海老名彈正
東京市小石川區丸山町四番地
印刷人　相原一郎介
東京市赤坂區田町五丁目十一番地
印刷所　齋藤活版所

發行所　東京小石川區林町四十三番地
新人社
(振替貯金口座一四〇〇五)
(電話番町二五四〇)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

主筆　海老名彈正

新人

▶十月一日發行　第十二巻　**十月號**　定價　十五錢　一年　一圓六十五錢◀

◉祖先崇拜か子孫崇拜か……社説

▼分れの旅路……内ケ崎作三郎
▼一基督教徒の見たる起信論……津荷輔
▼予が基督に對する關係の歷史……安部清藏
▼キユキユニアン村の牧師……森脇白夜

◉希望の生活（教壇）……海老名彈正

時潮小觀……
△大隈の「維新の國是より見たる教育の方針」を讀む
△金子筑水氏の「現實教」に表はれたる近代思想の傾向
△田中王堂氏の「わが修養論」の哲學

▶時評◀
◎我國德育の一大缺陷
◎平和問題と基督教壇
◎野球問題の側面觀
○聖書改譯
◎權威無視の時代
◎女子の開放

◉自然主義か理想主義か……ルドルフ、オイツケン　鹿子木員信譯

▲ボストン氣焰錄……海老名一雄
▲雁山集……不喚樓主人
▲榛名の麓より……九里原生
▲編輯だより
▲教界彙報

◉聖書の講義（馬可傳）……海老名彈正

東京小石川林町四三　新人社　振替東京一四〇〇五　電話番町二五四四

『かれこれと迷ふこと勿れ
完全無缺なる大學目藥あり

大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●はやり目●トラホーム●星目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に驚べき奇効あり●全國各地有名の藥店にあり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

最も貴重なる智識を最も單純に意得し得るは本會の有する最大特色也

女子手藝講義錄

普通科
高等科
一ケ年終了

會員募集

手藝の素養なき婦人は文明の婦人たる資格を有せざる人なり

少額の費を以て家庭に最も有効なる手藝の最新智識を完全に修得せしむる本會の講義錄也講師は斯道の大家四十名世界の技術と最新の流行と最新の考案を最新式の説明法を以て簡易に講述す

共立女子職業學校
櫻友會内手藝普及會編

無料進呈　入會規程　内容見本

圖解入（毎號石版彩色木版數十個入）

質疑　會員の質問は最も丁寧に應答を示す

會費

普通科		高等科	
一ケ月	金參拾錢	壹ケ月	金參拾五錢
半ケ年	金壹圓七拾錢	半ケ年	金壹圓九拾九錢
壹ケ年	金參圓貳拾四錢	貳ケ年	金參圓七拾八錢

社交上精神上家政上の成効を希望する婦女子は速に入會せよ

入會申込所
東京日本橋
大倉書店

新刊

子供の權利

田村直臣著

菊半截　布裝美製　定價五拾錢　郵稅六錢

婦人の心得

松村介石著

袖珍形　定價卅五錢　郵稅四錢

東京橋尾張町　**警醒社書店**　東京本郷春木町

振替五五三

子供の數は大人の數よりも多いのです、子供は是から大きくなるものですから、其の取扱ひ方によつて國民の發展上大影響があるのです子供の權利といふ、此の言葉だけでも如何に此の本が、新しい眞理をもつて、子供を見ようとするかが窺はれるでせう。

各宗敎の長短をさぐり、五十有餘の浮世の辛酸をなめ覺醒したる人として、本書の著者は、女のゆく可き、平たい道を女に示さうといふのであります。古き道德に飽きたらず、しかも現代の亂れた人生觀に往く事も出來ない若い女性は、本書から、慈味のある暗示を受けるでありませう。

入院診斷後應需

松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

（本電）八八八（病院用）
八九八（私宅用）

東洋內科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二御茶水橋南

院長　醫學士　高田畊安

南湖院

相州高座郡茅ケ崎町海濱從停車場半里

電話ちがさき二番

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

但　院長渡歐中　副長代理す

新女界

毎月一日一回發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

明治四十四年拾月一日發行第參卷第拾號

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN